

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
101	政治学演習α(縣公一郎)	通年	3年以上：4単位	縣 公一郎 政政・経演・国演

## 副題

公共政策研究

## 講義概要

今日の社会生活で、政府活動の影響はあらゆる分野に及んでおり、私たちは政府活動との関連なくして一刻も生活を営めない、と言って過言でないだろう。従って、社会的諸関係構築のための戦略、計画、プログラム、個々の意思決定、具体的活動としての公共政策を通じて、政府が、なぜ如何なる行為を如何にして社会にもたらしめているのかという点は、現代社会において問うべき重要な課題だろう。

本演習は、かかる政府活動の分析で基礎となる手法の学修と、その応用を目指すものである。

3年次前期は、公共政策関連の内外文献を用いた報告や他大学との合同ゼミに向けた共同研究で基礎学修を進めつつ、各人の個別テーマ確定に努める。

3年次後期以降は、設定された個別テーマに関する研究と報告を経て、最終的にゼミナール論文を作成する。各人が研究対象とする国ないし地域（例えば、首都圏、日本、ドイツ、EU等）と、採り上げる政策領域（例えば、マルチメディア、通商産業、学術教育、国土、医療、農業、環境、交通、都市、労働等）もしくは政府・行政機構を、ある程度明確に設定しておいて頂きたい。その際、国際的枠組（例えば、ドイツのテレコム政策ならEU、日本の通商産業政策ならばWTOや対米関係）を十分に意識してほしい。原則として3年と4年は別々の会合を持つが、相互に交流を図るため、火曜日IV限とV限をゼミナールの共通時間として確保して頂きたい。

## シラバス (授業計画)

第1回：ガイダンス  
第2回～第28回：学生による報告・討論  
第29回～第30回：ゼミ論総括報告

## 教科書

## 参考文献

## 評価方法

学期演習中における口頭報告と講論内容、及び学期末提出のゼミナール論文に拠る。

## 関連URL

<http://www.pprs-waseda.com/>

## 備考

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
102	政治学演習α(飯島昇藏)	通年	3年以上：4単位	飯島 昇藏 政政・経演・国演

**副題** リベラリズムとは何か？

**講義概要**

リベラリズム(自由主義)は、その他の政治的語彙、なかんずく、さまざまな-ismのなかでも、最も論争的な概念の一つであるといえる。リベラリズムをめぐる、たとえば、次のような問題群がたちあられる。リベラリズムとは何かを理解するためにはどうするのが最も良いのであろうか。リベラリズムはそれ自身で最も良く理解できるのであろうか。それとも、それは、その他の主義、たとえば民主主義や社会主義やファシズムなどとの比較のなかで最も良く理解されるのであろうか。リベラリズムは近代や現代の独占物であらうか。それとも、リベラリズムは古代や中世にも存在したのであろうか。存在したと言えらば、それらはどのような実体を持ち、どのようなあられ方をしたのであろうか。あるいは、近代的リベラリズムの創始者とはだれであらうか。

この演習では、リベラリズムとは何かという問いに、レオ・シュトラウスの『リベラリズム 古代と近代』の講読を通じて、接近する。リベラル・デモクラシーの友を自認したシュトラウス自身は政治的な保守主義者であったが、かれの古典研究を通して、リベラリズムに阿らない、リベラリズム理解が得られるかもしれない。

**シラバス  
(授業計画)**

第1回：リベラリズム 古代と近代』の「序文」  
 第2回：第1章“What Is Liberal Education”の講読と討論  
 第3回：第2章“Liberalism and Responsibility”の講読と討論  
 第4回：第3章“The Liberalism of the Classical Political Philosophy”の講読と討論(1)  
 第5回：第3章“The Liberalism of the Classical Political Philosophy”の講読と討論(2)  
 第6回：第4章「『ミノス』について」の講読と討論  
 第7回：第5章「ルクレティウスについての覚え書き」の講読と討論(1)  
 第8回：第5章「ルクレティウスについての覚え書き」の講読と討論(2)  
 第9回：第5章「ルクレティウスについての覚え書き」の講読と討論(3)  
 第10回：第5章「ルクレティウスについての覚え書き」の講読と討論(4)  
 第11回：第6章「いかにして『迷える者の手引き』の研究をはじめるか」の講読と討論(1)  
 第12回：第6章「いかにして『迷える者の手引き』の研究をはじめるか」の講読と討論(2)  
 第13回：第7章「パドゥアのマルシリウス」の講読と討論  
 第14回：第8章「エピローグ」の講読と討論  
 第15回：第9章「『スピノザの宗教批判』への序言」の講読と討論(1)  
 第16回：第9章「『スピノザの宗教批判』への序言」の講読と討論(2)  
 第17回：第10章「善き社会に関する諸々のパースペクティヴ」の講読と討論  
 第18回～第30回  
 第18回から第30回までは、演習参加者各人の研究報告と議論を予定している。  
 また、シュトラウスのその他の著作の講読も考慮している。  
 夏合宿(2泊3日)での集中演習も予定している。

**教科書**

石崎嘉彦・飯島昇藏ほか訳『リベラリズム 古代と近代』(ナカニシヤ出版、2006年)ほか

**参考文献**

添谷育志・谷喬夫・飯島昇藏訳、レオ・シュトラウス著『ホッブズの政治学』(みすず書房、1990年)  
 石崎嘉彦・飯島昇藏ほか訳、レオ・シュトラウス著『僭主政治について』(上)(下)(現代思潮新社、2006年、2007年)

**評価方法**

ゼミへの出席、ゼミでの報告(準備を含む)、ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文

**関連URL**

**備考**

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
103	政治学演習α(石田光義)	通年	3年以上：4単位	石田 光義 政政・経演・国演

**副題** 政治制度の国際比較

**講義概要** 実りある国際化の基本的条件は、他国民との相互理解にあることはいままでもないであろう。そのためには、他国をどのように知るか、自国をどのように位置づけるかが、たえず課題とされるであろう。そうした関心を出発点として、一定のテーマを設け、比較の基準を整え、諸国家の政治制度の比較分析を試みたい。その際、単に制度だけの比較にとどまらず、それぞれの国家における制度と現実生活との、具体的な緊張関係の理解も心がけたいと思う。

**シラバス  
(授業計画)** 第1回～第5回：各自研究国の概要紹介と研究テーマの説明  
 第6回～第10回：各国の歴史  
 第11回～第15回：各国の政治制度  
 第16回～第20回：各国の経済・産業  
 第21回～第25回：各国の軍事・外交  
 第26回～第30回：各国の教育・文化  
 ◎グループワークとして毎回ディスカッションの時間を設け、さらに全体討議を行う。  
 ◎月に1回程度ディベートの時間を設ける。テーマは2週間前に決定し、グループワークとして準備する。

**教科書** 川岸ほか『憲法』新版（青林書院、2005年）、飯島・川岸編『憲法と政治思想の対話』（新評論、2002年）藪下監修『立憲主義の政治経済学』（東洋経済新報社、2008年）ほか。

**参考文献** 開講時に参考文献一覧を配布する予定である。

**評価方法** ゼミでの報告（準備を含む）、ディスカッションへの貢献度、ゼミ論文。

**関連URL**

**備考**

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
104	政治学演習α(伊東孝之)	通年	3年以上：4単位	伊東 孝之 政政・経演・国演

## 副題

民主主義と独裁の間で

## 講義概要

われわれは民主主義のもとで生きているので、いかにして民主主義が成立するのかを忘れてがちである。実はつい35年ほど前まで地球人口の5分の4が独裁体制下にあった。今日なお半分が独裁体制下にある。演習においては、まず非民主主義体制とは何かを考え、それはどのようにして民主化するのか、このまま民主主義が定着するのか、それとも揺れ戻しがあるのか。まだ民主化していない国々はどうなるのか、われわれはどうすればよいのか、われわれ自身の民主主義を深化する必要があるのか、などという問題を考えてい。先進国というよりも後進国、とくに発展途上国、旧社会主義国の問題に関心をもつ諸君を歓迎する。やる気のある人、英語力に自信のある人、仲間や教員と議論したい人が望ましい。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：導入
- 第2回：ダール1970(1)
- 第3回：ダール1970(2)
- 第4回：ダール1970(3)
- 第5回：ゼミ論中間発表1
- 第6回：ダール(4)、オドンネル・シュミッター1986(1)
- 第7回：オドンネル・シュミッター1986(2)
- 第8回：オドンネル・シュミッター1986(3)
- 第9回：ゼミ論中間発表2
- 第10回：オドンネル・シュミッター1986(4)
- 第11回：ハンチントン(1)
- 第12回：ハンチントン(2)
- 第13回：ゼミ論中間発表3
- 第14回：ハンチントン(3)
- 第15回：まとめ・評価・他
- 第16回：Stepan 2000
- 第17回：ゼミ論中間発表4
- 第18回：Rustow 1970
- 第19回：Rose & Shin 2001
- 第20回：ゼミ論中間発表5
- 第21回：Geddes 1999
- 第22回：Dahl 1999a, Dahl 1999b
- 第23回：ゼミ論中間発表6
- 第24回：Przeworski & Limongi 1997
- 第25回：Przeworski 1986
- 第26回：ゼミ論中間発表7
- 第27回：Linz 1998
- 第28回：Fearon & Laitin 2003
- 第29回：ゼミ論中間発表8
- 第30回：まとめ・評価・他

## 教科書

教科書はない。

## 参考文献

さしあたりサミュエル・P・ハンチントン著、藪野祐三・中道寿一・坪郷實訳『第三の波』三嶺書房1995年、J・J・リンツ、A・ステパン著、荒井祐介・五十嵐誠一・上田太郎訳『民主化の理論。民主主義への移行と定義の課題』一藝社2005年。なお、参考文献を読了していることが受講の条件ではない。自分が関心をもてる国を見出し、関係文献を自主的に広く読むことが肝要である。

## 評価方法

ふだんの授業態度と提出されたゼミ論に基づいて行う。

## 関連URL

<http://www.f.waseda.jp/tito/>, <http://www.waseda.jp/sem-tito/>,  
<http://homepage3.nifty.com/tito/>

## 備考

講義：2009年度伊東孝之『比較政治学A・B』あるいは2010年度久保慶一『比較政治学A・B』を2010年度後期までに履修すること。困難な場合は2011年度(再び伊東担当)でもよい

が、履修しなかった場合は演習の単位が取り消しとなるので注意。  
電子メールで問い合わせ可能：tito@waseda.jp

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
105	政治学演習α(大浜啓吉)	通年	3年以上：4単位	大浜 啓吉 政政・経演・国演

## 副題

公共政策と行政法

## 講義概要

行政権は市民社会の機能不全を正すために公共政策を策定の形をとって市民社会へ介入し、政策を実施します。公共政策の多くは法律の形式をとりますが、予算、計画、政省令、行政規則、通達等の複数の法形式に分散して表現されます。しかし憲法の枠を越えた政策は違憲となり、裁判所によって破棄されます。この演習では、憲法と行政法の基礎知識を身につけながら現実の裁判例を素材に公共政策の問題を行政訴訟の角度から勉強していくことにします。留学のため2年間ゼミを休みましたが、再開します。

最初の数回を「市民社会と行政法」と題して基礎知識についてレクチャーし、その後、事例問題を素材に報告と議論をしたいと思います。将来（卒業時）の各人の研究のテーマ選択はまったくの自由です。挑戦すべき課題の例としては、自治体行政（分権政策）、まちづくり・開発行政、環境政策、福祉行政、財政金融政策、教育政策、年金改革や特殊法人改革、警察行政など沢山あるでしょう。議論を通して自らを磨きたいと思う熱意ある人の参加を期待しています。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：市民社会と市民法（民法）の原理(1)
- 第2回：市民社会と市民法（民法）の原理(2)
- 第3回：市民社会への国家・行政の介入
- 第4回：産業廃棄物処理施設反対事件（No. 3）
- 第5回：報告、討論、コメント
- 第6回：アイヌの聖地ダム事件（No. 4）
- 第7回：報告、討論、コメント
- 第8回：生活保護打ち切り事件（No. 10）
- 第9回：報告、討論、コメント
- 第10回：児童扶養手当打ち切り事件（No. 11）
- 第11回：報告、討論、コメント
- 第12回：パチンコ店建設反対事件（No. 14）
- 第13回：報告、討論、コメント
- 第14回：再開発反対事件（No. 15）
- 第15回：報告、討論、コメント
- 第16回：廃棄物大量不法投棄事件（No. 16）
- 第17回：報告、討論、コメント
- 第18回：タクシー運賃値下げ事件（No. 17）
- 第19回：報告、討論、コメント
- 第20回：内申書開示事件（No. 18）
- 第21回：報告、討論、コメント
- 第22回：用地買収情報開示事件（No. 19）
- 第23回：報告、討論、コメント
- 第24回：談合監査事件（No. 19）
- 第25回：報告、討論、コメント
- 第26回：米軍基地土地収用事件（No. 21）
- 第27回：報告、討論、コメント
- 第28回：胃腸薬傷害事件（No. 6）
- 第29回：報告、討論、コメント
- 第30回：河川水害事件（No. 9）

## 教科書

市川正人・曾和俊文・池田直樹編「ケースメソッド公法（第2版）」（日本評論社）

## 参考文献

大浜啓吉著『行政裁判法』（岩波書店・2010年刊行予定）、同『行政法総論（新版）』（岩波書店・2006年）。その他、必要な文献等はその都度、言及します。

## 評価方法

出席点は最重視する（60%）。学生の報告に当たってはレジュメを書いて貰います。レジュメと報告の質は重要な評価の対象です（20%）。また討論における姿勢も大切です。質問や問題提起の鋭さも評価の対象になります（20%）。出発時の知識はゼロで結構ですが、その後の各自の熱意と伸び方も重視したいと思います。

## 関連URL

<http://www.waseda.jp/sem-ohama01/top.html>（大浜ゼミナールホームページ）2年近く更新していません。僕には能力がないので、ホームページ担当者を早く決めたいと思っています。

## 備考

試験の答案のレベルが近年とても低く、学生の文章力と教養の低下が著しいので、04年度から、毎年若干の「新書」を読ませ、レポートを書かせることにしています。新書は、教師が良書と考えるものを選択しています。レポートには評価（A・B・C）を付けて返却します。みるみる力がついているように思います。

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
106	政治学演習α(川岸令和)	通年	3年以上：4単位	川岸 令和 政政・経演・国演

## 副題

日本国憲法の現在

## 講義概要

日本国憲法は、敗戦という現実をもたらした新しい時代の新秩序を構成すべく制定された。その新秩序は、基本的人権・国民主権・平和主義の実現という構想を基軸にして展開されることとなった。これらの概念は日本史上根本的に新規なものである。またこの憲法は初めて広く討議に付され制定された。そのときから日本国民は自らの政治運営による正統性の探求という終わりなき旅を始めたのであった。60年を経た現在、その約束は果たされているであろうか。

本演習は、新しい時代の新しい政治の科学として誕生した日本国憲法に関する判例・学説の現在の到達点を把握すること、そしてそのさらなる発展の可能性を問うことを目的とする。方法としては、法解釈学とそれを支える政治・思想・歴史的アプローチとを行きつ戻りつしながら進めていく。日本国憲法の可能性を問うことは、我々の過去を顧み、未来を構想することである。我々は集団としてどのような人間でありたいと考えているのであろうか。

憲法を勉強しようとする際には、感性が豊かで、人間や社会問題に幅広く関心を抱いていることが重要である。現時点での憲法に関する知識は問わない。温かい心と冷静に議論しようとする姿勢をもつ諸君の参加を希望する。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：開講に当たって
- 第2回：戸末『ブレップ 憲法』第3版を読むⅠ
- 第3回：戸末『ブレップ 憲法』第3版を読むⅡ
- 第4回：尊属殺重罰規定違憲判決を読むⅠ
- 第5回：尊属殺重罰規定違憲判決を読むⅡ
- 第6回：樋口『憲法入門』4訂版を読むⅠ
- 第7回：樋口『憲法入門』4訂版を読むⅡ
- 第8回：樋口『憲法入門』4訂版を読むⅢ
- 第9回：憲法判例を読むⅠ
- 第10回：憲法判例を読むⅡ
- 第11回：古関『日本国憲法の誕生』を読むⅠ
- 第12回：古関『日本国憲法の誕生』を読むⅡ
- 第13回：古関『日本国憲法の誕生』を読むⅢ
- 第14回：古関『日本国憲法の誕生』を読むⅣ
- 第15回：前半のまとめ
- 第16回：夏合宿ディベート大会での問題の検討
- 第17回～第29回：受験生と相談の上決定したテキストを読む
- 第30回：まとめ 期末レポート講評

## 教科書

川岸ほか『憲法』新版（青林書院、2005年）、飯島・川岸編『憲法と政治思想の対話』（新評論、2002年） 藪下監修『立憲主義の政治経済学』（東洋経済新報社、2008年）ほか。

戸松秀典『ブレップ 憲法』第3版（弘文堂、2007年）、樋口陽一『憲法入門』4訂版（勁草書房、2008年）、古関彰一『日本国憲法の誕生』（岩波現代文庫、2009年）、川岸ほか。

## 参考文献

開講時に参考文献一覧を配布する予定である。

## 評価方法

ゼミへの積極的参加の度合い、小レポート、ゼミ論文により総合的に評価する。

## 関連URL

## 備考

憲法を未履習のゼミ生は、三年次に必ず履修すること。

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
107	政治学演習α(河野勝)	通年	3年以上：4単位	河野 勝 政政・経演・国演

**副題** 現代日本政治の諸問題

**講義概要** 日本の政治を政治学的に考察する。往々にして、現代の日本政治を語る語り口は、評論的でジャーナリスティックになりがちになるが、本演習では理論やモデルをふまえて、政治学的分析の題材として日本政治の諸相をとらえることを心がける。

実際にどのような問題を扱うかは、参加する学生諸君の関心にゆだねる。選挙、政党政治から公共政策、防衛・外交に至るまで、広くかたよりのないトピックを数多く扱えることが理想であるが、教官がプレゼンテーションの内容を押しつけることはしない。しかし、その代わり、自分の関心のある領域について知識を深めようとするのであるから、教官以上に専門的な情報を提供できるよう、熱心な取り組みが期待される。

なお、政治学的に考えるということは政治的に考えるということと全く異なる知的営為である。ひとりよがりのイデオロギーや特定の規範的価値を前面に押し出すのではなく、価値判断をするための経験的知識や考察を積み重ねることが目的であるとの前提で、演習へ参加してもらう。

## シラバス (授業計画)

第1回：イントロダクション  
 第2回～第8回：教科書輪読  
 第9回～第15回：3年生：卒論ブレインストーミング  
 4年生：卒論 中間発表  
 第16回：イントロダクション  
 第17回～第23回：3年生：卒論中間発表  
 4年生：企業・産業・日本経済レポート  
 第24回～第30回：4年生：卒論最終発表

**教科書** 『アクセス 日本政治論』（平野浩・河野勝編 日本経済評論社）2003年

**参考文献** 『制度』（河野 勝、東京大学出版会）2002年  
 『アクセス』シリーズ各巻（日本経済評論社）

**評価方法** 出席、ディスカッションへの参加。

**関連URL** <http://kohno-seminar.net/>

**備考** 学生に対する要望  
 人生に対して真剣であること。自分を大切にし、他人を尊重すること。心身ともに健康であること。

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
108	政治学演習α(小原隆治)	通年	3年以上：4単位	小原 隆治 政政・経演・国演

## 副題

自治・分権を考える

## 講義概要

自治・分権をめぐるさまざまな問題を多面的な角度から考察する。前期は、参加者が下記のテキストを輪読形式で読み進める。今年度は、自治体とくにその福祉行政を取り巻く現在の問題状況をいくつかのテキストを通じてまず検討したうえで、自治・分権に直接関連した概論的なテキストを扱い、各自の問題意識を深めてもらう。夏合宿(未定)～後期は、参加者が前期の学習を踏まえてそれぞれ関心あるテーマを選択し、テーマ別に編成したグループ単位で研究報告を積み重ねる。後期末に、それまでの研究成果を8,000字以上のレポートにまとめて提出する。

ゼミの学習面でも運営面でも、参加者の自主性に大いに期待したい。ゼミもまた「自治」の実践の場だからである。なお、ゼミに出席することは参加者の権利だが、そこには相応の責任がともなう。無断欠席は認められない。また、相当の理由なく各期回数 $\frac{3}{10}$ 以上欠席した者は、ゼミに参加する権利を自動的に失う。前期で失格した者は後期に参加する権利を持たない。

## シラバス (授業計画)

第1回：ガイダンス

第2回～第9回：山田(2007)、宮本(2008)、森岡(2008)を2～3回ずつで輪読する。

第10回～第14回：天川・稲継(2009)を5回で輪読する。

第15回：今後の打ち合わせ

夏合宿(未定)、第16回～第30回：参加者がテーマ別に編成したグループ単位で研究報告を行なう。

## 教科書

山田昌弘『少子社会日本』(岩波新書、2007年) ISBN978-4-00-431070-9

宮本太郎『福祉政治』(有斐閣、2008年) ISBN978-4-641-17802-1

森岡清志編『地域の社会学』(有斐閣、2008年) ISBN978-4-641-12271-0

天川 晃・稲継裕昭『自治体と政策』(放送大学教育振興会、2009年) ISBN978-4-595-13911-6

## 参考文献

開講時をはじめ随時紹介する。

## 評価方法

出席要件を満たしていることを前提として、日頃のゼミへの貢献度(80%)とレポートの内容(20%)を基準に行う。

## 関連URL

## 備考

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
109	政治学演習α(佐藤正志)	通年	3年以上：4単位	佐藤 正志 政政・経演・国演

**副題**

公共性の思想史—近代啓蒙の批判的継承

**講義概要**

本演習では西洋政治思想史上の古典的著作を、古典として現代になお生きつづけていることの意味を考えながら、またそれぞれのテキストの書かれた文脈をふまえながら、じっくりと読むことをひとつの目標としている。本年度も引き続き、〈いま、あらためて「啓蒙とは何か」を考える〉という視点から、ルソーや百科全書派、またカントの古典に立ち戻る。同時に、啓蒙思想の歴史的コンテクストとして、書物や新聞の読者としての公衆の登場や世論の成立に着目しながら、市民社会と公共圏の形成について考察する。ハーバーマスやフーコーらの著作を読んで、私たちが現代の政治と公共性について考えるときに啓蒙思想はどのような意味をもっているのかを検討する。このようにして啓蒙の政治的ヴィジョンの多様性と現代性の再検討を目指す。

ゼミは毎回、共通テキストの分担報告を中心とする。本年度の主題に即して、古典を輪読すると同時に、それらのコンテクストに関する報告を分担して行う。夏期合宿では主題に関わる現代思想を取り上げる。こうした共通の取り組みと同時に、ゼミ参加者は、広く政治思想にかかわる領域から、それぞれ自分の問題関心にしたがってテーマを選び、研究をすすめることになる。春期と秋期にそれぞれ、その報告と討論の機会をもうける。なお専門演習βでは、こうした演習での成果を基礎に、ゼミ論文の作成にむけた指導と、中間報告が中心となる。各自の問題関心にしたがって研究を深めると同時に、できる限り、他のメンバーの取り組んでいる問題への関心を共有し、知識の幅を広げてゆけるようなゼミの持ち方を追求したいと思う。

**シラバス  
(授業計画)**

第1回：ガイダンス  
第2回：共通課題についての問題提起とディスカッション  
第3回～第11回：共通課題についての分担報告とディスカッション  
第12回～第14回：個別課題予備レポート報告  
第15回：中間のまとめ  
第16回：共通課題についての問題提起とディスカッション  
第17回：共通課題についての分担報告とディスカッション  
第18回～第23回：個別課題レポート中間報告  
第24回～第29回：共通課題についての分担報告とディスカッション  
第30回：総括、レポート提出

**教科書**

本演習では、初めに共通課題に関してディスカッションを行い、それを踏まえて主として古典的作品を共通テキストとして決定する。以下は本課題に関する古典の例。  
ルソー『学問・芸術論』『人間不平等起源論』『社会契約論』、カント『啓蒙とは何か』など。

**参考文献**

ロイ・ポーター『啓蒙主義』（岩波書店、2004年）。  
トドロフ『啓蒙の精神』（法政大学出版局、2008年）。  
ホーフ『啓蒙のヨーロッパ』（平凡社、1998年）。  
富永茂樹『理性の使用-ひとはいかにして市民となるのか』（みすず書房、2005年）。  
ピーター・ゲイ『自由の科学-ヨーロッパ啓蒙思想の社会』（ミネルヴァ書房、1982年）。  
ヴェントゥーリ『啓蒙のユートピアと改革』（みすず書房、1981年）。  
ダントン『禁じられたベストセラー-革命前のフランス人は何を読んでいたか』（新曜社、2005年）。  
ホルクハイマー、アドルノ『啓蒙の弁証法』（岩波書店、1990年）。  
ハーバーマス『公共性の構造転換』第2版（未来社、1994年）。  
フーコー「啓蒙とは何か」（『フーコー・コレクション<6>生政治・統治』（ちくま学芸文庫、2006年）。  
佐藤正志編『啓蒙と政治』（早稲田大学出版部、2009年）。  
その他、ゼミのなかで紹介する。

**評価方法**

ゼミは毎回の参加と、そこでの分担課題と各自の研究テーマについての報告が基本で、それに加えて、最終的にレポート（βはゼミ論文）で評価することになる。

**関連URL**

<http://www.f.waseda.jp/ssato/>

**備考**

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
110	政治学演習α(田中愛治)	通年	3年以上：4単位	田中 愛治 政政・経演・国演

## 副題

現代政治学の実証分析・計量分析

## 講義概要

現代政治現象の実証的な分析方法を実践的に学ぶ。日本および海外の投票行動・政治意識（世論）が担当教員の主な関心であるが、ゼミ生は政治過程全般に少しひろくテーマを設定しても良い。その中で、政治学的に意味のある仮説を立て、仮説の実証的な検証方法を学び、説得力をもった議論の展開の方法を身につけるように心がけたい。また、専門書や学術論文を読むことも、実証分析との関連で必要となるだろう。

3年生は秋の早稲田祭にグループごとに共同研究（グループワーク）の成果を発表するので、6月中旬から10月末までは、グループごとにその作業にとりかかる予定。

4年生は、各自が実証研究のテーマを設定して、卒論研究を行う。

夏休みは9月にゼミ合宿を行う予定。また年度の末に向けて、同志社大学と遠隔（テレビ会議方式）合同ゼミでプレゼンを互いに行う予定。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：実証政治分析の考え方
- 第2回：実証分析の方法論を学ぶ：高根正昭『創造の方法学』（1）
- 第3回：実証分析の方法論（2）高根正昭『創造の方法学』3章
- 第4回：実証分析の方法論（3）高根正昭『創造の方法学』4章
- 第5回：実証分析の方法論（4）高根正昭『創造の方法学』5章 前半
- 第6回：実証分析の方法論（5）高根正昭『創造の方法学』5章 後半
- 第7回：実証分析の方法論（6）高根正昭『創造の方法学』6章～終章
- 第8回：計量分析の実習（1）パソコンによる統計分析 SPSS(1)
- 第9回：計量分析の実習（2）パソコンによる統計分析 SPSS(2)
- 第10回：計量分析の実習（3）パソコンによる統計分析 SPSS(3)
- 第11回：計量分析の実習（4）パソコンによる統計分析 SPSS(4)
- 第12回：グループワークのテーマ設定（1）
- 第13回：グループワークのテーマ設定（2）－グループ分け（テーマ別に）
- 第14回：グループワークによるデータ収集
- 第15回：テーマ別にグループ毎の夏休みの作業方針の決定
- 第16回：グループワークのグループ毎のデータ分析（1）
- 第17回：グループワークのグループ毎のデータ分析（2）
- 第18回：早稲田祭発表の準備・プレゼンテーション練習（1）
- 第19回：早稲田祭発表の準備・プレゼンテーション練習（2）
- 第20回：政経学部論文コンクールに向けて研究開始
- 第21回：政経学部論文コンクールに向けて分析(1)
- 第22回：政経学部論文コンクールに向けて分析(2)
- 第23回：政経学部論文コンクールに向けて執筆開始
- 第24回：政経学部論文コンクールに向けて完成
- 第25回：同志社大学との合同ゼミに向けてグループごとの分析とプレゼン(1)
- 第26回：同志社大学との合同ゼミに向けてグループごとの分析とプレゼン(2)
- 第27回：同志社大学との合同ゼミに向けてグループごとの分析とプレゼン(3)
- 第28回：各自卒論のテーマ設定とプレゼン（1）－卒業後の進路検討（1）
- 第29回：各自卒論のテーマ設定とプレゼン（2）－卒業後の進路検討（2）
- 第30回：各自卒論のテーマ設定とプレゼン（3）－卒業後の進路検討（3）

## 教科書

伊藤光利、田中愛治、真淵勝『政治過程論』有斐閣（2000年4月）  
久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝『政治学』有斐閣（2003年12月）  
高根正昭『創造の方法学』講談社新書

## 参考文献

ゼミの中で紹介する。

## 評価方法

出席率を重視する。ゼミレポート、ゼミ発表も必ず行う。卒論は必須。

## 関連URL

授業初回または説明会（開催予定）の際に、お知らせします。

## 備考

学生に対する要望  
関連科目 「政治過程論」「計量政治学」は履修してもらいたい。ゼミへの出席は重視し、100%出席が原則と考えてもらいたい。

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
111	政治学演習α(田中孝彦)	通年	3年以上：4単位	田中 孝彦 政政・経演・国演

## 副題

世界政治秩序の歴史的変容と現在

## 講義概要

このゼミでは、第二次世界大戦後の「冷戦」とよばれた時代から今日にかけて、世界政治がどのように変化してきたのかについて、分析を試みる。ゼミは大きく分けて次のような目標をもって行われる。

第一に、冷戦期世界政治がどのような歴史的展開を見せたのかについて、基本的な知識を習得し、国際政治上の事象を理解する上で大切な考え方や問題の建て方を学んでもらう。

第二に、冷戦の時代に、どのような新しい世界政治の変化の波が現れたのか、世界政治の古い波動がどのように消えていったのか、そして、何が変化せずに現在に残っているのかについて、考察を試みる。

第三に、上の二つをふまえた上で、いま私たちはどのような世界に生きているのか、その中で日本政府や市民は何を考えたように行動していくべきなのかについても分析を試みる。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：国際政治学の基礎(1)：現実主義とリベラリズム
- 第3回：国際政治学の基礎(2)：戦争はなぜ起こるのか
- 第4回：国際政治学の基礎(3)：第一次世界大戦の起源
- 第5回：国際政治学の基礎(4)：第二次世界大戦の起源
- 第6回：国際政治学の基礎(5)：冷戦とは何だったのか
- 第7回：国際政治学の基礎(6)：冷戦後の紛争
- 第8回：国際政治学の基礎(7)：グローバル化と相互依存の国際政治
- 第9回：国際政治学の基礎(8)：脱国家主体の台頭
- 第10回：国際政治学の基礎(9)：冷戦後国際秩序
- 第11回：冷戦期国際政治史(1)：なぜ冷戦を学ぶのか
- 第12回：冷戦期国際政治史(2)：冷戦史研究の視点
- 第13回：冷戦期国際政治史(3)：冷戦開始の前提条件 1
- 第14回：冷戦期国際政治史(4)：冷戦開始の前提条件 2
- 第15回：冷戦期国際政治史(5)：冷戦の起源(欧州) 1
- 第16回：冷戦期国際政治史(6)：冷戦の起源(欧州) 2
- 第17回：冷戦期国際政治史(7)：冷戦期におけるアジア国際政治 1
- 第18回：冷戦期国際政治史(8)：冷戦期におけるアジア国際政治 2
- 第19回：冷戦期国際政治史(9)：冷戦の変容と拡大 1
- 第20回：冷戦期国際政治史(10)：冷戦の変容と拡大 2
- 第21回：冷戦期国際政治史(11)：人類滅亡の危機から緊張緩和へ 1
- 第22回：冷戦期国際政治史(12)：人類滅亡の危機から緊張緩和へ 2
- 第23回：冷戦期国際政治史(13)：冷戦と社会変動 1
- 第24回：冷戦期国際政治史(14)：冷戦と社会変動 2
- 第25回：冷戦期国際政治史(15)：冷戦と社会変動 3
- 第26回：冷戦期国際政治史(16)：緊張緩和の進展と挫折 1
- 第27回：冷戦期国際政治史(17)：緊張緩和の進展と挫折 2
- 第28回：冷戦期国際政治史(18)：冷戦の終焉 1
- 第29回：冷戦期国際政治史(19)：冷戦の終焉 2
- 第30回：冷戦期国際政治史(20)：冷戦の終焉 3

## 教科書

1. Joseph S. Nye, Jr., Understanding International Conflicts: An Introduction to Theory and History, Longman, 2003.
2. Robert J. McMahon, The Cold War: A Very Short Introduction, OUP, 2003.
3. Jussi Hanhimaki & Odd Arne Westad, The Cold War: A History in Documents and Eyewitness Accounts, OUP, 2003.
4. G. John Ikenberry, After Victory: Institutions, Strategic Restraint, and the Rebuilding of Order after Major Wars, Princeton UP, 2001.
5. Stanley Hoffmann, Chaos and Violence: What Globalization, Failed States, and Terrorism Mean for U.S. Foreign Policy, Brown & Littlefield, 2006.

## 参考文献

授業中に適宜紹介する。

## 評価方法

3年生については、ゼミ中のパフォーマンスによって評価する。  
4年生については、ゼミ中のパフォーマンスと卒業論文による。

## 関連URL

授業初回または説明会(開催予定)の際に、お知らせします。

## 備考

1. 上記の授業計画に加えて、夏合宿を行い、時事的な問題についての論文などを読み議論します。スポーツもやります。就活などによって困難ではありますが、冬合宿も計画しています。授業の補完をし、スキーもやります。

2. 前向きで熱意のある人、チャレンジ精神旺盛な人、来たれ。
3. なお、英語の文献をたくさん読みますが、はじめの半年をクリアすれば、すぐに慣れます。1時間に10ページは読めるようになります。ひるまずにチャレンジしてください。

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
112	政治学演習α(谷藤悦史)	通年	3年以上：4単位	谷藤 悦史 政政・経演・国演

**副題**

世論・メディア政治・政治コミュニケーション研究

**講義概要**

マス・メディアの発達と社会への浸透さらにまた新しいメディアの誕生は、政治のあり方を変えつつあります。本演習は、社会の情報化による政治的影響を様々な角度から探ることをねらいとして研究を進めます。

具体的には、情報テクノロジーの発達と政治過程の変容、政治態度、政治意見、政治的価値観、政治イメージ形成とマス・メディアの関係、選挙キャンペーン、投票行動とマス・メディアの諸影響、現代テレビ政治の特質、政治ジャーナリズムの現代的特性、現代世論の特性などの問題を、最新の理論成果を基に研究します。

研究は、理論と分析方法の検討、データの収集と解析、比較研究の視座からの欧米各国と我が国の状況との比較検討、などを行う形で進めます。マス・メディアと政治、世論などに関心を持ち、積極性のある学生を求めます。

**シラバス  
(授業計画)**

- 第1回：前期演習のガイダンス
- 第2回：政治とメディアをどう研究するか
- 第3回：現代ニュースの特性
- 第4回：現代ニュースの生産過程
- 第5回：現代のジャーナリズムとジャーナリスト
- 第6回：現代のPRと政治
- 第7回：現代のオーディエンス
- 第8回：現代の選挙とメディアを理解する
- 第9回：現代政党のメディア利用を理解する
- 第10回：現代紛争とメディア
- 第11回：現代のテロとメディア
- 第12回：ニューメディアと政治的利用
- 第13回：ニューメディアは民主主義を変えるか
- 第14回：政治とメディア研究の方法
- 第15回：前期演習のまとめ
- 第16回：後期演習のガイダンス
- 第17回：世論概念を検討しよう（1）
- 第18回：世論概念を検討しよう（2）
- 第19回：世論の歴史（1）
- 第20回：世論の歴史（2）
- 第21回：世論の歴史（3）
- 第22回：世論をどうとらえるか
- 第23回：現代の世論調査
- 第24回：社会学的世論研究
- 第25回：心理学的世論研究
- 第26回：認知心理学と世論研究
- 第27回：世論の経済学的方法
- 第28回：世論と現代民主主義（1）
- 第29回：世論と現代民主主義（2）
- 第30回：後期演習のまとめ

**教科書**

授業でそのつど指示します。

**参考文献**

M. L. デフレー、S. ボール＝ロキーチ 柳井・谷藤訳『マスコミュニケーションの理論』敬文堂  
 谷藤・大石訳『リーディングス政治コミュニケーション』一芸社  
 谷藤『現代メディアと政治』一芸社

**評価方法**

ゼミの定期的な発表、レポートならびにゼミナール論文（卒論）による。

**関連URL****備考**

関連科目：政治学、現代デモクラシー論、政治過程論、マス・コミュニケーション論、社会調査論などを取得するのが望ましい。

学生に対する要望 この分野に興味を持ち、主体的、積極的に研究する意欲ある学生諸君の参加を求めます。志望の際は研究のねらいと目標などを詳しく書くこと。

連続してゼミに参加しない学生は評価しない。

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
113	政治学演習α(土屋礼子)	通年	3年以上：4単位	土屋 礼子 政政・経演・国演

## 副題

近代史におけるメディアとプロパガンダ、およびジャーナリズム

## 講義概要

近代日本および欧米におけるメディアの発達の経緯を理解し、検閲制度をはじめとする政府との関係、政治家とジャーナリズムの関係、世論を動かすためのプロパガンダという思想がどのように展開してきたかを、実証的に学び議論するとともに、メディアに対するアプローチのしかた、メディアの分析のしかたなど、基本的な手法を用いた報告を課し、年度末には各自が卒論テーマを見いだせるよう研究をすすめる。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：全体的な導入
- 第2回：基本文献（日本語）の輪読（1）
- 第3回：基本文献の輪読（2）
- 第4回：基本文献の輪読（3）
- 第5回：基本文献の輪読（4）
- 第6回：基本文献の輪読（5）
- 第7回：基本文献の輪読（6）
- 第8回：中間のまとめと議論
- 第9回：基本文献（英語）の輪読（1）
- 第10回：基本文献の輪読（2）
- 第11回：基本文献の輪読（3）
- 第12回：基本文献の輪読（4）
- 第13回：基本文献の輪読（5）
- 第14回：基本文献の輪読（6）
- 第15回：前半のまとめと議論
- 第16回：各メディア及び人物の研究に関する導入
- 第17回：各メディア研究報告（1）
- 第18回：各メディア研究報告（2）
- 第19回：各メディア研究報告（3）
- 第20回：各メディア研究報告（4）
- 第21回：各メディア研究報告（5）
- 第22回：各メディア研究報告（6）
- 第23回：中間のまとめと議論
- 第24回：人物研究報告（1）
- 第25回：人物研究報告（2）
- 第26回：人物研究報告（3）
- 第27回：人物研究報告（4）
- 第28回：人物研究報告（5）
- 第29回：人物研究報告（6）
- 第30回：後半のまとめと議論

## 教科書

輪読する基本文献については開講時に指示する。  
前半については、土屋礼子共訳『米国のメディアと戦時検閲』（法政大学出版局）  
後半については、『近代日本メディア人物誌』（ミネルヴァ書房）など。

## 参考文献

随時紹介する。

## 評価方法

毎回の演習への参加および議論への貢献、発表する報告の内容、またそれをまとめたレポートにより評価する。

## 関連URL

## 備考

メディア史に関心のある方で、積極的に議論する方を望みます。

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
114	政治学演習α(坪井善明)	通年	3年以上：4単位	坪井 善明 政政・経演・国演

**副題** 東南アジアの政治と社会

**講義概要**

ASEAN10カ国だけでなく、インド、中国、台湾、韓国を含む東南アジア、東アジアに関心を持つ諸君の参加を求めます。三年生の前半は、これらの地域の現状を分析するための社会学的な基礎文献の購読を中心にゼミは展開されます。

アンダーソン、サイード、センなどの外国人研究者の文献だけでなく、中西徹、末廣昭、白石隆などの日本人研究者の文献も渉猟します。3年後期からは、グループに分かれて、担当の地域や国を決めて、各地域や各国の歴史・地理・政治・経済・文化などを包括的にかつ深く勉強して、自分の卒論のテーマを探します。4年生になってからは、自分の卒論のテーマを決め、それを書くための資料収集や現地調査をしてもらい、卒論完成に向けて中間発表や合宿などを行います。4年生の最後には研修旅行として、ヴェトナムに行って、ハノイ大学・ホーチミン市大学との学生との討論会を予定しています。

**シラバス  
(授業計画)**

- 第1回：授業方法の紹介、自己紹介  
 第2回：課題書1. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第3回：課題書2. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第4回：課題書3. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第5回：課題書4. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第6回：課題書5. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第7回：課題書6. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第8回：課題書7. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第9回：課題書8. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第10回：課題書9. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第11回：課題書10. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第12回：課題書11. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第13回：課題書12. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第14回：課題書13. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第15回：課題書14. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第16回：課題書15. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第17回：課題書16. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第18回：課題書17. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第19回：課題書18. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第20回：課題書19. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第21回：課題書20. (各自2000字にレポートを書いてきて報告)  
 第22回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告1  
 第23回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告2  
 第24回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告3  
 第25回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告4  
 第26回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告5  
 第27回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告6  
 第28回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告7  
 第29回：東南アジア諸国の政治経済研究グループ報告8  
 第30回：総括と卒論の課題

**教科書**

**参考文献**

坪井善明『ヴェトナム「豊かさ」への夜明け』、『ヴェトナム新時代-「豊かさ」への模索』（岩波新書）を事前に読了しておくこと。

**評価方法**

学生に対する要望 東アジア・東南アジアや国際政治を勉強したいと臨む意欲のある学生。体力にも（知力にも）自信のある学生。アジアの共通語は英語だから、英語力のあることは必須である。卒業までにTOEFLで600以上はとれるように各自で努力すること。できれば、アジアの言葉の修得もしてほしい。

**関連URL**

**備考**

課題書は参加学生と協議して決定する。ゼミへの出席は重視し、100%出席が原則と考えてもらいたい。

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
115	政治学演習α(仲内英三)	通年	3年以上：4単位	仲内 英三 政政・経演・国演

**副題** 近代西欧政治社会の歴史

**講義概要** 本年度は、19世紀後半から20世紀中葉にかけての英国とドイツの政治について、とくに政党の活動を中心に検討していきたい。同じくヨーロッパに属する英国とドイツではあるが、両地域における政党の発展は、歴史的・社会的・思想的なさまざまな要因から異なる発展を遂げてきた。それは当時の両地域の政治社会の違いを知るうえで重要であるばかりでなく、現在のヨーロッパの政治を考えるうえでも非常に示唆に富むものである。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：政党とその役割
- 第2回～第16回：英国の政党の発展
- 第2回：政党研究の歴史と政党の類型
- 第3回～第4回：1867年から1895年までの自由党優位の時代
- 第5回～第6回：1874年から1900年までの保守党の復活
- 第7回～第8回：19世紀後半（後期ヴィクトリア時代）の政治変革
- 第9回～第10回：19世紀末から第一次大戦までの政党の危機
- 第11回：世紀転換期の新自由主義の形成
- 第12回：世紀転換期の労働主義と労働党の誕生
- 第13回～第14回：1906年から1914年までの政党政治（選挙選を中心に）
- 第15回～第16回：両大戦間期の政党と議会
- 第17回～第30回：ドイツの政党の発展
- 第17回～第20回：19世紀中葉からドイツ帝国創建までの政党
  - (1) 自由主義諸政党 (2) 保守主義諸政党
  - (3) 政治的カトリシズム (4) 社会主義諸政党
- 第21回～第24回：ドイツ帝国時代の政党
  - (1) 自由主義諸政党 (2) 保守主義諸政党
  - (3) 中央党 (4) 社会民主党
- 第25回～第30回：ヴァイマル共和国時代の政党
  - (1) ドイツ民主党、ドイツ人民党 (2) 社会民主党
  - (3) 中央党 (4) ドイツ国民人民党
  - (5) ドイツ国民社会主義労働党 (6) ドイツ共産党

**教科書** なし。教師が授業内容に即したレジュメを配布する。

**参考文献** 授業のはじめに、参考文献の一覧表を配布する。

**評価方法** 演習への積極的な意欲とあまり長くないゼミ論文。

**関連URL**

**備考**

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
116	政治学演習α(中村英俊)	通年	3年以上：4単位	中村 英俊 政政・経演・国演

## 副題

国際政治の理論と現実—英国学派を中心に

## 講義概要

EU・ヨーロッパ統合、アジアの地域統合、国際連合、G8サミット、核拡散問題、気候変動問題など国際関係・国際政治の事例について、その本質（「現実」）を研究（理解・説明・分析）する上で、私たちは一定の理論的枠組みを必要とする。

国際政治の理論研究は、第二次世界戦争後、アメリカの学界を舞台に発展してきたと言える。ここでは、リアリズムとリベラリズムの間のパラダイム論争が重要な位置を占めてきた。しかし、大西洋の反対側・英国の国際政治学界では、アメリカの学問的流行とは一線を画した、独特な理論研究が積み重ねられてきたと言つてよい。近年、「英国学派」(English School)として注目を浴びている国際政治の見方について、それを身に付けることを本演習の基本的目標としたい。

本演習では、まず第1段階として、邦語文献を中心にした輪読を通して、主としてアメリカ国際政治学界で展開してきたリアリズムとリベラリズムの論争について概観したい。この段階では、下記の参考文献

(1) (2) などを読み込むことになる。つぎの第2段階では、「英国学派」の国際政治理論について、参考文献(3) (4)などで基礎知識を身に付けた後、より専門的な英語文献に取り組みたい。具体的には、英国国際政治学会(BISA)のReview of International Studies誌、および、英王立国際問題研究所(RIIA)のInternational Affairs誌などから各自が関心を寄せるテーマの論文を選び、報告・輪読の作業を重ねる。この段階で、各自が研究テーマを絞り込む作業を始めることになる。最後に第3段階では、それまでの理論研究の成果を踏まえて、各自が事例研究のテーマを決定する。そして最終的に、理論研究と事例研究が上手く融合するゼミナール論文を完成してもらおう。

本演習の3年次(政治学演習α)終了時点では、ひとまず、タームペーパーを提出してもらおう。4年次(政治学演習β)への過渡期(2-3月)に、同タームペーパーに基づく報告会を開催し、ゼミナール論文完成へ向けての課題を自覚してもらうことになるだろう。4年前期には、ゼミナール論文の中間報告を重ね、特に夏季休業中には(3年生も前にして)全員参加の報告会を開催する。4年後期で完成させるゼミナール論文については、春季休業中に口頭試験ないしは最終報告会を開催することにする。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：国際政治の研究テーマ
- 第3回：英語基礎文献輪読(Nye, Chap. 1)
- 第4回：英語基礎文献輪読(Nye, Chap. 2)
- 第5回：英語基礎文献輪読(Nye, Chap. 3)
- 第6回：英語基礎文献輪読(Nye, Chap. 4)
- 第7回：先行研究の調査実習
- 第8回：英語基礎文献輪読(Nye, Chap. 5)
- 第9回：英語基礎文献輪読(Nye, Chap. 6)
- 第10回：英語基礎文献輪読(Nye, Chap. 7)
- 第11回：英語基礎文献輪読(Nye, Chap. 8)
- 第12回：英語基礎文献輪読(Nye, Chap. 9)
- 第13回：国際政治の理論と現実：各自の研究テーマの選定
- 第14回：各自の研究テーマに関する先行研究の検討
- 第15回：報告会：各自の暫定的研究テーマについて
- 第16回：研究テーマ報告：英語文献(先行研究)の紹介を中心に(1)(2)
- 第17回：研究テーマ報告：英語文献(先行研究)の紹介を中心に(3)(4)
- 第18回：研究テーマ報告：英語文献(先行研究)の紹介を中心に(5)(6)
- 第19回：研究テーマ報告：英語文献(先行研究)の紹介を中心に(7)(8)
- 第20回：研究テーマ報告：英語文献(先行研究)の紹介を中心に(9)(10)
- 第21回：研究テーマ報告：英語文献(先行研究)の紹介を中心に(11)(12)
- 第22回：研究テーマ報告：英語文献(先行研究)の紹介を中心に(13)(14)
- 第23回：研究テーマ報告：英語文献(先行研究)の紹介を中心に(15)(16)
- 第24回：研究テーマ報告：英語文献(先行研究)の紹介を中心に(17)(18)
- 第25回～第30回：タームペーパー中間報告

## 教科書

## 参考文献

- (1) 鴨武彦ほか編『リーディングス・国際政治経済システム』(全4巻、有斐閣)特に、第1巻『主権国家を超えて』と第4巻『新しい世界システム』
- (2) ジョセフ・S・ナイ『国際紛争：理論と歴史』(田中明彦・村田晃嗣訳、有斐閣)
- (3) ヘドリー・ブル『国際社会論：アナーキカル・ソサイエティ』(白杵英一訳、岩波書店)
- \* (2)や(3)は、原著(英文)の最新版を読んでほしい。
- (4) R. Jackson and G. Sorensen, Introduction to International Relations

## 評価方法

- (1) 演習への積極的参加—出席(合宿なども含む)と報告・議論(量と質)
- (2) 3年次(α)はタームペーパー、4年次(β)はゼミナール論文(口頭試験を含む)

関連URL
-------

備 考
-----

関連科目： 国際機構論、現代国際関係論、国際政治学、国際政治史、国際法など。オープン教育センターの「テーマスタディ（全学共通副専攻）」の中では、「EU・欧州統合研究」、「国際協力」など。  
学生に対する要望： 厳しく楽しいゼミを創りたいと思います。積極的かつ主体的に参加してくれる人の応募を待っています。

2010-11年度の留意事項：2010年度後期から「特別研究期間」に入るため、ゼミを「集中講義形式」で開講することが増える予定です。

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
117	政治学演習α(日野愛郎)	通年	3年以上：4単位	日野 愛郎 政政・経演・国演

## 副題

メディアと選挙の実証分析

## 講義概要

このゼミでは、メディアと選挙の実証分析について学びます。「選挙」という政治的な一大イベントでは、政治家や政党は政策集をマニフェストという形で発表し、マス・メディアも、これらの政策メッセージや党首の発言など一挙手一投足を報道します。このゼミでは、3年次に「内容分析」(content analysis)という手法を学びながら、これらの政治的情報を体系的に記録し、分析します。3年次の1年間で、実証分析の基礎であるデータ構築の方法・技術を身に付けてもらいます。4年次では、自らの関心に沿ってゼミ論を作成してもらいます。テーマはメディアと選挙に関連することであれば何でも構いません。3年次に作成したデータを利用して論文を作成することも歓迎します。最終的に、自らの関心に沿って、仮説を検証することが目的となります。ゼミ全般を通して、他大学で実証分析を行っているゼミと連携して、合同ゼミを開催することも予定しています。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：実証分析とは
- 第2回：リサーチクエスチョンを探す
- 第3回：仮説を立てる
- 第4回：作業化をする
- 第5回：因果関係を特定する
- 第6回：ケースを選択する
- 第7回：資料を収集する
- 第8回：データを構築する
- 第9回：内容分析の方法(1)：分析の単位
- 第10回：内容分析の方法(2)：サンプリング
- 第11回：内容分析の方法(3)：コーディング
- 第12回：内容分析の方法(4)：信頼性の確認
- 第13回：内容分析の研究例(1)：比較マニフェスト研究
- 第14回：内容分析の研究例(2)：情勢報道研究
- 第15回：前期のまとめ
- 第16回：ゼミ生による資料収集・報告(1)
- 第17回：ゼミ生による資料収集・報告(2)
- 第18回：ゼミ生による資料収集・報告(3)
- 第19回：データの構築(1)
- 第20回：データの構築(2)
- 第21回：データの構築(3)
- 第22回：データの構築(4)
- 第23回：データの構築(5)
- 第24回：ゼミ生による内容分析・報告(1)
- 第25回：ゼミ生による内容分析・報告(2)
- 第26回：ゼミ生による内容分析・報告(3)
- 第27回：ゼミ生による内容分析・報告(4)
- 第28回：ゼミ生による内容分析・報告(5)
- 第29回：仮説の検証とは
- 第30回：後期のまとめ

## 教科書

高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、1979年。  
 クラウス・クリッペンドルフ『メッセージ分析の技法―「内容分析」への招待』勁草書房、1989年。  
 有馬明恵『内容分析の方法』ナカニシヤ出版、2007年。

## 参考文献

ゼミにおいて適宜指示します。

## 評価方法

出席、報告の内容、討論への参加とレポートの内容等を総合的に勘案して評価します。

## 関連URL

## 備考

マスコミュニケーション理論、政治過程論、計量政治学などの関連科目を履修していることが望まれます。

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
118	政治学演習α(福田耕治)	通年	3年以上：4単位	福田 耕治 政政・経演・国演

**副題** 国際行政と国際公共政策-EUとUNを中心として-

**講義概要** グローバル化に伴い、国民国家の枠を超えて行政の活動領域も拡大する傾向にある。本演習では、このような国際行政現象に注目し、国際機構内部の行政管理、国際行政と国内行政の関係、国際公共政策の管理や国境を越える政府間関係とINGOとの関係などの諸問題を扱う。国連やEU、その他の国際機構行政を事例として、国家行政との関係で、いかにして環境、開発、安全保障、人権・人道、難民保護などの国際公共政策を形成し、実施していくのかについて研究する。

## シラバス (授業計画)

前期

- 1 国際行政学とは何かー対象と方法
- 2 地球市民社会の構築と国際行政・国際公益・国際公共政策
- 3 国際社会福祉労働・国際社会保障政策と国際行政
- 4 国際医療保健政策と感染症対策
- 5 国際通貨・金融政策と国際公共政策
- 6 国境を越える政府間関係と地方自治体協力ー補完性原則
- 7 国際情報通信政策と国際行政
- 8 国際機構の難民政策と国際行政
- 9 食の安全性確保政策と国際行政
- 10 国際公共政策課程と国際機構、企業NGOの役割
- 11 国際行政責任論と国際コントロール
- 12 国際機構の行財政改革
- 13 国際警察行政協力と国際行政
- 14 国際安全保障・平和構築政策と国際行政
- 15 グローバル・ガバナンスと国際行政

後期

- 1 国際行政の研究方法
- 2 研究論文の書き方
- 3 地球環境・エネルギー・ガバナンス(1)
- 4 地球環境・エネルギー・ガバナンス(2)
- 5 地球環境・エネルギー・ガバナンス(3)
- 6 国際開発ガバナンス(1)
- 7 国際開発ガバナンス(2)
- 8 国際開発ガバナンス(3)
- 9 国際社会保障・国際人権・人道ガバナンス(1)
- 10 国際社会保障・国際人権・人道ガバナンス(2)
- 11 国際社会保障・国際人権・人道ガバナンス(3)
- 12 国際社会保障・平和構築ガバナンス(1)
- 13 国際社会保障・平和構築ガバナンス(2)
- 14 国際社会保障・平和構築ガバナンス(3)
- 15 グローバル・ガバナンスと地球市民社会

3年生は、EUとUN等を事例とした国際行政の概念や理論に関する内外の基本文献を読む。グループごとにパワー・ポイントを用いてプレゼンしてもらい、学際的方法論や基礎知識を身につけられるようにする。その際、研究資料の収集と分析の方法、研究論文の読み方や書き方、レジュメの書き方や研究発表の仕方、討論の方法についても基礎的な能力を涵養する。4年生は、各ゼミ生が任意のテーマを設定し研究をすすめ、個別報告を行う。各報告について全体で討論を行い、チュートリアル指導も含め、各自の問題意識と研究能力を育むことを目指したい。

## 教科書

福田 耕治『国際行政学』有斐閣ブックス、2003年5月

## 参考文献

内外の学会誌等の最新の研究論文や資料を用いるので、適宜指示する。  
 なお、本演習では卒業論文集(CD-ROM版も含む)の刊行、合宿を実施している。  
 福田耕治編著『EU・欧州統合研究』成文堂、2009年10月  
 福田耕治・他『EU・国境を越える医療』文真堂、2009年7月  
 福田耕治編著『EUとグローバルガバナンス』早稲田大学出版部、2009年4月  
 Koji Fukuda, "Accountability and NPM reforms in the EU", *Envisioning Reform: Enhancing UN Accountability in the 21st Century*, UNU Press, 2009.

## 評価方法

ゼミでの発表内容、意欲及び各自の論文を評価の対象とする。

## 関連URL

<http://www.f.waseda.jp/fukudak/>

## 備考

時事通信社『世界週報』2004年11月30日号に、本ゼミの紹介が掲載されている。

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
119	政治学演習α(藤井浩司)	通年	3年以上：4単位	藤井 浩司 政政・経演・国演

## 副題

比較公共政策への接近

## 講義概要

世紀の転換のただなかにあつて、20世紀後半期を通じて先進社会が共有してきた戦後コンセンサスの終焉が告げられている。21世紀になってさらに顕著になったこの〈揺らぎ〉は、既成の体制として構築された社会・経済・政治構造の抜本的な組み替えを迫っている。Restructuring, realignmentなどといったフレーズで示される構造改革の課題は、特に政府／公共部門にとって「存立の危機」にかかわるほどにまで重くのしかかり、厳しく問い直されている。「モデルなき実験」、「羅針盤なき航海」ともいわれる課題への取り組みは、各国によってさまざまであり、再編の道程も定まっていない。自らの座標を定め、課題解決のためのオルタナティブを探るうえで、各国の政策対応を整理・分析する意義はこれまで以上に大きいといえる。こうした問題関心から、各国における個別政策分野での政策対応の現状・課題・展望について検討していきたい。

## シラバス (授業計画)

第1回～第30回：受講生研究報告＋質疑応答、講評・総括

## 教科書

別途随時指示する。

## 参考文献

## 評価方法

出席状況、受講意欲、研究報告、課外活動への取り組みなど、総合的に評価する。

## 関連URL

## 備考

ゼミナールは、3・4年合同で2時限連続で行います。フルタイム参加するのがゼミ加入の前提条件です。また、合宿（夏・冬2回）、コンパ（随時）など課外活動への参加は、ゼミ参加の基本的な条件です。

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
120	政治学演習α(堀真清)	通年	3年以上：4単位	堀 真清 政政・経演・国演

**副 題** デモクラシーとファシズムー日本を中心にー

**講義概要** 歴史研究の意味はマインドの形成にある。堅固な批評精神の形成と思考の訓練は一体である。歴史における真実は灰色ではない。部分的に黒であり、白である。そして、白か黒かを決めるのは思考である。  
政治は歴史によって闇達にされないかぎり低俗である。一方、歴史は現実の政治との関係を見失っているときは単なる文学へと色あせてしまう。政治史や思想史はこのことの理解のうえに成立する学問である。  
以上を念頭に演習では主として日本におけるデモクラシーとファシズムを検討していきたい。

**シラバス(授業計画)** 第1回～第5回：政治史、とくに日本のそれを勉強する意味を考える。そのさい、歴史学の「方法」などにもふれる。  
第6回～第10回：テキストを使用しながら、1920年ー30年代の日本の社会を概観する。そのさい、アジア・ヨーロッパ・北米の情勢も同時に視野におく。  
第11回～第30回：受講者が報告し、討議する。  
テーマは各人の自由で、日本政治史に限局されない。

**教科書** 『西田税と日本ファシズム運動』（岩波書店）  
『ファシズムを超えてー政治学者の戦いー』（早大出版部、新装版）

**参考文献** 授業中に説明します。

**評価方法** 出席して報告することが評価の基準ですが、そのさい、他の報告者のペーパーへの批評なども考慮します。

**関連URL**

**備 考**

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
121	政治学演習α(眞柄秀子)	通年	3年以上：4単位	眞柄 秀子 政政・経演・国演

**副題**

世界各国の比較政治分析

**講義概要**

比較政治学の代表的な理論枠組みや分析手法を駆使して、現代政治世界のさまざまな「なぜ？」の解明に取り組む。検討テーマになりうるものは多岐にわたる。例えば、アメリカの2008年大統領選や日本の2009年衆院選に見られるような「歴史的」政権交代は、いかなる力学によってもたらされるのか。2008年のリーマンショック後に先進各国の政策的対応の速度と質が異なったのはなぜか。フランス、イタリア、ドイツなどの欧州各国の近年の選挙における保守回帰（フランス、イタリア、ドイツ等）はなぜ起こっているのか。各国福祉改革や経済構造改革における政府の役割重視と市場機能重視の度合いの国ごとの違いはなぜ起こるのか。豊かな非民主的体制はなぜ民主化が難しいのか。世界各国で、政治腐敗が起こりやすい国と起こりにくい国があるのはなぜか・・・これらに代表される多様な謎を比較政治学のアプローチで検討する。

アプローチのとり方は自由。社会学的、歴史学的、経済学のアプローチのどれを使ってもよい。ややヨーロッパにアクセントが置かれるが、分析対象は、先進諸国、アジア、アフリカ、ラテンアメリカのいずれの地域・国でもよい。各自がそれぞれの分析対象国に関する緻密な研究を行うと同時に、他のゼミ生の研究発表を通じて世界中の政治の現在を知り、さまざまな問題の解決の道を模索する。

またゼミでは、できる限り海外ゲストに講演していただく機会を作りたい。2009年度は、LSEのR. ドーア教授、ミラノ大学のD. Checchi教授、A. Chiesi教授、S. Sacchi教授らを招聘し、日本とイタリアの構造改革とその帰結についてお話いただいた。2010年度も、内外のゲストを招聘し、ゼミ生に活発に参加してもらいたい。ゼミでは、英語だけでなく、それ以外の外国語にも力を入れて勉強することを奨励したい。これらを通して政治世界の今日的な諸課題に対して、政治学がどのように貢献できるのかを問いたい。

**シラバス  
(授業計画)**

第1回：イントロダクション（自己紹介とスケジュール調整等）

第2回～第12回：文献の講読と討論

下のリストを参考に必要に応じてより新しい文献も加えて、重要な理論枠組みを検討する。

(1) R. ホーリングスワース、長尾伸一、長岡延孝『制度の政治経済学』木鐸社、2000。

(2) B. アマーブル著 山田鋭夫、原田祐治訳『五つの資本主義：グローバリズム時代における社会経済システムの多様性』藤原書店、2005。

(3) P. ホール、D. ソスキス著 遠山弘徳訳 『資本主義の多様性：比較優位の制度的基礎』ナカニシヤ出版、2007。

第13回～第15回：各自の研究予定課題発表と討論

なお、夏休み期間にはゼミ合宿を予定している。

第16回～第20回：文献の講読と討論

下のリストを参考に必要に応じてより新しい文献も加えて、重要な理論枠組みを検討する。

(1) 日本比較政治学会編『比較政治学の将来』早稲田大学出版部、2006。

(2) 宮本太郎編『比較福祉政治：制度転換のアクターと戦略』早稲田大学出版部、2006。

(3) ツェベリス『拒否権プレイヤー：政治制度はいかに作動するか』早稲田大学出版部、2009。

(4) 眞柄秀子、井戸正伸編『拒否権プレイヤーと政策転換』早稲田大学出版部、2007。

第21回～第29回：各自中間研究発表

第30回：まとめ、研究プロポーザル提出

**教科書**

特になし。

**参考文献**

眞柄・井戸『改訂版 比較政治学』放送大学教育振興会（2004年）。

新川・井戸・宮本・眞柄『比較政治経済学』有斐閣（2004年）。

**評価方法**

毎回のゼミでの貢献および研究発表の内容を考慮しつつ学年末に提出してもらう研究プロポーザルで評価する。

**関連URL****備考**

比較政治学の主要理論を学び、仮説を立て、それを実証するというスタイルで勉強したい人向き。特定のテーマや地域・国に関心を持ち、その最新の展開をフォローするよう心がけてほしい。本格的に研究したい人が多くを学べるゼミにしたい。

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
122	政治学演習α(谷澤正嗣)	通年	3年以上：4単位	谷澤 正嗣 政政・経演・国演

**副題** 現代リベラリズムとその批判

**講義概要** 政治を語る際に用いられる重要な概念について分析しつつ、「権力とはどんな力か」「自由と平等を両立させる政治体制は可能か」といった問題を扱うのが政治理論である。政治理論の研究は古典古代にさかのぼる歴史的次元と、きわめて抽象的な哲学的次元を有するが、現代の研究の多くは「リベラル・デモクラシー」と呼ばれる特定の具体的な体制をなかば自明の前提としている。リベラル・デモクラシーに含まれる価値や規範を肯定し正当化しようとする政治理論を「現代リベラリズム」と呼ぼう。他方、それらの価値や規範に対する批判に重きを置く政治理論を「現代リベラリズム批判」と呼ぼう。本演習では、現代リベラリズムとそれを批判するさまざまな潮流のあいだの対話を追いながら、現代リベラリズムがどのように洗練されてきたかを明らかにする。

**シラバス  
(授業計画)**

第1回：イントロダクション 現代政治理論とは何か  
 第2回：リベラリズムの歴史的変遷（1）  
 第3回：リベラリズムの歴史的変遷（2）  
 第4回：『リベラル・コミュニタリアン論争』講読（1）  
 第5回：『リベラル・コミュニタリアン論争』講読（2）  
 第6回：『リベラル・コミュニタリアン論争』講読（3）  
 第7回：『リベラル・コミュニタリアン論争』講読（4）  
 第8回：『リベラル・コミュニタリアン論争』講読（5）  
 第9回：『リベラル・コミュニタリアン論争』講読（6）  
 第10回：『リベラル・コミュニタリアン論争』講読（7）  
 第11回：『リベラル・コミュニタリアン論争』講読（8）  
 第12回：『リベラル・コミュニタリアン論争』講読（9）  
 第13回：『リベラル・コミュニタリアン論争』講読（10）  
 第14回：『リベラル・コミュニタリアン論争』講読（11）  
 第15回：考察と討議（1）政治的リベラリズムの可能性  
 第16回：考察と討議（2）夏季レポート報告  
 第17回：文献講読（テキストは授業開始後に決定する）  
 第18回～第29回：文献講読  
 第30回：考察と討議（3）ゼミ論文執筆に向けて

**教科書** S・ムルホール、A・スウィフト『リベラル・コミュニタリアン論争』（勁草書房、2007年）  
 後期の教科書は授業開始後に受講生と相談の上で決定する。

**参考文献** 川崎修、杉田敦編『現代政治理論』（有斐閣、2006年）  
 太田義器、谷澤正嗣編『悪と正義の政治理論』（ナカニシヤ出版、2007年）

**評価方法** レジュメ報告、討論での発言、学期中のレポートまたは試験、学年末レポートをすべて加味して総合的に評価する。

**関連URL**

**備考** 選考課題（レポート）を課す。詳細は掲示を参照のこと。オリエンテーションで参考資料を配布するので必ず入手して熟読すべし。ゼミの見学は随時歓迎する。質問や相談は電子メールでどうぞ。

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
123	政治学演習α(山本武彦)	通年	3年以上：4単位	山本 武彦 政政・経演・国演

**副題** 安全保障と国際政治

**講義概要** 本演習では、国家安全保障、国際安全保障、脱国境安全保障（「人間の安全保障」を含む）の三つの安全保障の次元をめぐって書かれた英語文献の分析と検討、討論を通して国際政治の核心を構成してきた安全保障問題の本質を理解することに努める。具体的には安全保障関連の英語論文を“International Security”誌などの文献から引き出してグループごとに検討し、さらに全体討論で徹底的に掘り下げた討論を行うことによって、問題の所在を的確に把握することに努める。この研究は、各自の問題意識にそって卒業論文作成の前段階の試みであり、随時受講生による中間報告の機会も設けたい。評価は、受講者の担当した英語文献に基づく問題関心を問うレポートの内容と出席成績、討論への寄与度を総合して最終判定を行う。なお、1年に2回（9月、10月）に合宿を行い、問題意識のさらなる高揚に努める。演習希望者は当該合宿への参加が義務づけられるので、注意のこと。また、本演習では1997年以降、韓国の延世大学政治外交学科と交流プログラム（Wase Yon Program）を年2回実施しており、国際交流を通じた国際政治の理解の促進に努めていることを附記しておく。

**シラバス(授業計画)** 第1回～第7回：“International Security”誌の中から1論文を選び、輪読開始（第1班）  
第8回～第14回：“International Security”誌の中から他の1論文を選び、輪読開始（第2班）  
第15回～第21回：“International Security”誌の中から他の1論文を選び、輪読開始（第3班）  
第22回～第28回：“International Security”誌の中から他の1論文を選び、輪読開始（第4班）  
第29回～第30回：4回にわたる輪読を踏まえて安全保障の現代的課題を討論

**教科書** ハーヴァード大学ケネディ・スクール、Belfer Center for Science and International Affairs編集、“International Security”誌所収の論文

**参考文献** 山本武彦編『国際安全保障の新展開』早稲田大学出版部  
同 編『冷戦後のアジアの安全保障』日本学術振興協会  
同 『安全保障政策』日本経済評論社  
メアリー・カルドー著、山本武彦・渡部正樹訳『新戦争論』岩波書店  
メアリー・カルドー著、山本武彦他訳『グローバル市民社会論』法政大学出版局  
Mary Kaldor, Human Security. (London: Polity Press)

**評価方法** 出席点。平常の演習活動（討論への参加と寄与度）。最終レポートの内容評価。

**関連URL**

**備考** 英語文献の読解能力の高さと積極・果敢な討論への参加の意欲が求められる。

# 政治学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
124	政治学演習α(吉野孝)	通年	3年以上：4単位	吉野 孝 政政・経演・国演

## 副題

現代デモクラシーの政治過程

## 講義概要

現代デモクラシーは、多くの観点から見直しを迫られている。日本では「55年体制」の崩壊以降、新しい政党政治の在り方が模索され、従来の政府・行政の在り方が再検討されている（行政改革・地方分権）。実際、民主党政権の誕生によりその動きは本格化した。また、新しい政策課題の出現とともに、住民投票やNPOなど新しい参加様式へ関心も高まっている。本演習の課題は、現代デモクラシーの政治過程についての理論と実際の研究をつうじて、現代デモクラシーの問題状況を把握しその解決策を展望することにある。

## シラバス (授業計画)

第1回～第6回：4年生の報告を聞き討論に参加。その後サブ・ゼミ（共同調査研究報告のグループ分け、各グループで構成・内容の検討(1)(2)、共同調査研究計画の概要報告）

第7回～第9回：課題（作業シート）の報告と質疑応答（1回につき4・5人）

第10回～第14回：共同調査研究の中間報告1～5（1回につき1グループ）

第15回：個人研究テーマの発表（全員）

第16回～第30回：個人研究の報告（1回につき3人）

## 教科書

## 参考文献

## 評価方法

3年生は報告、出席、討論への参加で評価する。

## 関連URL

## 備考

要望事項 本演習を、自分でやりたいテーマを見つけ、それに真剣に取り組む学生諸君の知的トレーニングの場としたい。これまで勉強してこなかったで、そろそろ勉強したいという者、大学院進学準備をしたい者も歓迎される。政党、選挙・投票行動などに関心をもつ履修希望者には、3年配当の政党論、政治過程論を履修することを奨める。また、履修希望者のうち政治学原論を未履修の者は、それも同時に登録・履修することが望ましい。

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
125	政治学演習α(渡辺重範)	通年	3年以上：4単位	渡辺 重範 政政・経演・国演

**副題**

日本国憲法の変容過程

**講義概要**

基本的人権と統治機構を座標軸として日本国憲法の変容過程をゼミ生諸君の発表と討論を通じて解明してゆきたいと思う。基本的人権については信教の自由と政教分離、表現の自由と知る権利、日本国憲法第13条と新しい人権（プライバシーの権利、環境権など）、平等権とアファーマティブアクション、適正手続条項と行政手続、人権の新たな体系化等を主として取り扱いたいと思う。統治機構については国会、内閣、裁判所三権相互の関係、権力分立制、司法審査制、議院内閣制を主として扱いたいと思う。また、フェミニズム憲法学の視点を取り入れ、ジェンダー論も扱いたい。1945年を境として1995年までの50年と、さかのぼって1895年（日清戦争が終わった年）までの50年の2つの50年の対比を通じて、日本国憲法体系と明治憲法体系の本質に迫ることを目的とする。もとより1995年以降の改憲の問題を含めて、日本国憲法の将来の方向をも検証する。その点からも日本国憲法制定過程と第9条の問題は主要課題の一つである。ゼミ生諸君は自己の関心のあり様によって個人であれ、共同発表であれ、自由にテーマを選択することが出来る。

**シラバス  
(授業計画)**

- 第1回：今年度演習で扱う問題の視座
- 第2回：身分制社会から近代市民社会へ(1)主権と自由
- 第3回：身分制社会から近代市民社会へ(2)法治主義
- 第4回：明治憲法体制の特徴(1)19世紀ドイツ型立憲君主政の特徴
- 第5回：明治憲法体制の特徴(2)総帥権
- 第6回：明治憲法体制の特徴(3)議会と内閣制度
- 第7回：明治憲法体制の特徴(4)外見的立憲主義
- 第8回：日本国憲法の制定過程(1)
- 第9回：日本国憲法の制定過程(2)
- 第10回：比較憲法的視点よりみた日本国憲法
- 第11回：象徴天皇制(1)
- 第12回：象徴天皇制(2)
- 第13回：憲法第9条の変遷(1)
- 第14回：憲法第9条の変遷(2)
- 第15回：憲法第9条に関する判例研究(1)
- 第16回：憲法第9条に関する判例研究(2)
- 第17回：平和的生存権
- 第18回：人権の系譜、人権の分類
- 第19回：信教の自由 政教分離(1)
- 第20回：信教の自由 政教分離(2)
- 第21回：表現の自由(1)
- 第22回：表現の自由(2)
- 第23回：人権の光と影
- 第24回：平等権(1)衆議院議員定数配分問題
- 第25回：平等権(2)アファーマティブアクション
- 第26回：議院内閣制の諸問題
- 第27回：権力分立制
- 第28回：司法審査制
- 第29回：中央と地方との関係（地方自治）
- 第30回：憲法改正の諸問題

**教科書****参考文献**

ドイツ近代選挙制度史（成文堂）  
 教育の復権に向けて（早大出版部）  
 感性をみがく教育論（早大出版部）

**評価方法**

平常点により評価

**関連URL****備考**

ゼミナールは、3・4年合同で2時限連続で行います。フルタイム参加するのがゼミ加入の前提条件です。また、合宿（夏・冬2回）、コンパ（随時）など課外活動への参加は、ゼミ参加の基本的な条件です。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
201	経済学演習α(荒木一法)	通年	3年以上：4単位	荒木 一法 政政・経演・国演

## 副題

企業と家計の行動分析（応用マイクロ経済学）

## 講義概要

（目的）本演習は、企業と家計の行動分析を題材として、参加者の分析力とコミュニケーション能力を向上させることを主たる目的とします。

（方法）伝統的なマイクロ経済学に加えて、ゲーム理論や契約理論を具体的な分析事例を交えて学ぶことで、参加者の分析力の質を高め、幅を広げる事を試みます。また、プレゼンテーションと討論の機会をできるだけ多く確保するとともに、適宜短いレポートの提出を求め、参加者の「話す力」「書く力」の向上に努めます。

（題材の説明）企業の投資・資金調達行動、資金仲介者（銀行・証券会社等）の行動、さらには家計の消費・貯蓄・資産選択行動を分析対象とします。これらのトピックを理論的に扱った文献ならびに関連ニュースを報じる新聞・雑誌の記事を題材とします。まず、邦文献ならびに記事を題材にゼミを進め、後に英文文献ならびに記事を導入する予定です。

## シラバス (授業計画)

第1回：プレゼンテーションの技術（講義）  
第2回～第14回：履修者による発表と議論  
第15回：夏合宿および後期ゼミの課題設定  
第16回～第29回：履修者による発表と議論  
第30回：3年ゼミ活動のまとめと進路指導

## 教科書

教員が指定する教科書候補の中から、参加者が相談して決定します。

## 参考文献

## 評価方法

前後期ならびに夏合宿でのプレゼンテーション、レポートを評価します。

## 関連URL

## 備考

応募時に経済学入門A、マイクロ経済学α、解析学入門（もしくは解析学）の3科目について単位を取得済みであること、および別途詳細を掲示する3回のゼミ説明会のいずれか1回に出席することを応募の前提条件とします。本演習の目標に賛同し、チャレンジする意志をもった元気ある諸君の応募を大歓迎します。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
202	経済学演習α(石井安憲)	通年	3年以上：4単位	石井 安憲 政政・経演・国演

## 副題

国際貿易と投資の経済学演習

## 講義概要

ミクロ経済学、国際経済学・貿易論に関する書物を選択し、それらを輪読・討論形式で呼んでいく予定。ただし、現実の経済問題を理解するためには、幅広い経済的知識を必要とするので、国際環境経済学・国際マクロ経済学等の書物も並行して読むことがある。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：ミクロ経済学について(1)
- 第2回：ミクロ経済学について(2)
- 第3回：消費者行動について(1)
- 第4回：消費者行動について(2)
- 第5回：消費者行動について(3)
- 第6回：企業行動について(1)
- 第7回：企業行動について(2)
- 第8回：企業行動について(3)
- 第9回：企業行動について(4)
- 第10回：市場分析について(1)
- 第11回：市場分析について(2)
- 第12回：市場分析について(3)
- 第13回：市場の失敗について(1)
- 第14回：市場の失敗について(2)
- 第15回：市場の失敗について(3)
- 第16回：市場の失敗について(4)
- 第17回：不完全競争について(1)
- 第18回：不完全競争について(2)
- 第19回：環境問題について(1)
- 第20回：環境問題について(2)
- 第21回：環境問題について(3)
- 第22回：不確実性の経済学について(1)
- 第23回：不確実性の経済学について(2)
- 第24回：不確実性の経済学について(3)
- 第25回：卒論課題について(1)
- 第26回：卒論課題について(2)
- 第27回：卒論課題について(3)
- 第28回：卒論課題について(4)
- 第29回：卒論課題について(5)
- 第30回：まとめ

## 教科書

- 3年生 前半：石井安憲編著『現代ミクロ経済学』、東洋経済新報社  
後半：トピックス毎にコピー資料配付。
- 4年生 問題に応じて、グループ毎に適当な書物・資料を入手。

## 参考文献

## 評価方法

出席と討論・報告を重視する。

## 関連URL

## 備考

本ゼミでは、ディスカッションを主とするので、本ゼミへの参加を通じて、学問的知識の理解はもちろんのこと、物事に対し自発的かつ協力的に取り組む積極性と協調性を養って欲しい。ただし、「時間厳守は、君子の礼儀」を座右の銘にしているのので、無断欠席・遅刻を常とする者は、本ゼミへの参加を機にその態度を改めることが望まれる。なお、本ゼミ希望者は、国際貿易論(石井)、経済学研究(石井)を受講することが望ましい。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
203	経済学演習α(稲葉敏夫)	通年	3年以上：4単位	稲葉 敏夫 政政・経演・国演

## 副題

経済分析における統計的方法の研究

## 講義概要

情報技術革命の進展に伴い、大量のデータが利用できるようになり、データ処理に対するニーズはますます高まってきている。その様なニーズは、従来の統計学の枠組みを拡大させつつある。今やデータを簡単にダウンロードし、準備された統計計算用のソフトを使えば、意味が有ろうと無かろうとたちどころに計算してくれる。しかし、データ分析を意味あるものにするためには、それぞれの統計的方法の背景や前提を知ってなければならない。回帰分析などの基本的方法を習得するとともに、時系列分析やデータマイニングなどの最近の動向も含めた統計的方法も取り上げる。

## シラバス (授業計画)

第1回～第5回：時系列データ：古典的時系列分析  
第6回～第10回：景気変動：景気指標の作成方法と実際  
第11回～第15回：回帰分析  
第16回：前期総括  
第17回～第21回：データマイニング  
第22回～第26回：指数：物価指数と数量指数  
第27回～第29回：回帰分析：再考  
第30回：後期総括

## 教科書

開始時に指示。

## 参考文献

## 評価方法

ゼミにおける討論への参加状況と小論文との総合評価による。

## 関連URL

## 備考

関連科目：必ずしも前提とはしないが、統計学の基礎およびパソコンの基本的操作を習得していることが望ましい。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
204	経済学演習α(上田貴子)	通年	3年以上：4単位	上田 貴子 政政・経演・国演

## 副題

経済データ解析

## 講義概要

経済学の教科書や参考書では、数々の表やグラフ、統計解析結果などを目にする。この演習では、以下の順で、実際にコンピューターでデータ解析・統計解析を行う手法を学ぶ。前期はEXCEL、後期はSPSSを使用する。演習はPC室で実習形式にて行う。

1. 分析の目的を定め、対象となるデータを選定する。
2. グラフや統計表を作成し、データの特徴を把握する。
3. 分析目的に沿って、統計検定などを行う。
4. 研究成果を報告・発表する。また、ゼミ論としてまとめる。

分析対象とするデータは、演習参加者の興味に沿って各自で選定する。ただし、国別や県別などの横断面データを分析対象とし、株価等の時系列データは対象としない。

## シラバス (授業計画)

授業は選定される教科書や参加者の理解に合わせて、適宜変更することがある。

- 第1回：[前期] 演習の進め方について  
 第2回：Excelの基本的な使い方  
 第3回：統計データの種類と取得方法  
 第4回：1変数の基本統計：平均、中央値、最頻値、分散など  
 第5回：2変数の関連：共分散、相関係数  
 第6回：グラフの種類と作成方法  
 第7回：正規分布・一様分布とグラフ  
 第8回：ランダム・データによる基本統計量やグラフ  
 第9回：平均値の差の統計検定  
 第10回：取得データによる平均値の差の統計検定実習  
 第11回：単回帰分析とダミー変数  
 第12回：取得データによる単回帰分析とダミー変数実習  
 第13回：重回帰分析  
 第14回：取得データによる重回帰分析  
 第15回：Excelによる分析の小レポート発表、提出  
 第16回：[後期] 演習の進め方について  
 第17回：SPSSの基本的な使い方  
 第18回：基本統計とグラフの作成  
 第19回：相関の検定、分割表の作成と検定  
 第20回：平均の差の検定  
 第21回：単回帰分析・重回帰分析  
 第22～24回：多変量解析（主成分分析、因子分析、樹状図など）  
 第25回：時系列分析  
 第26～28回：ゼミ論のテーマと使用データの報告、実習と質疑  
 第29～30回：ゼミ論発表

## 教科書

未定

## 参考文献

適宜、指示する。

## 評価方法

出席を前提とする（無断欠席がある場合は不可とする）。評価はゼミ論を基本とし、前期末小レポート、演習への参加態度、発表を評価に加える。

## 関連URL

<http://www.f.waseda.jp/aueda/>

## 備考

経済学科の「統計学入門」「統計学」、あるいは同レベルの統計科目を履修済みであること。パソコン使用経験は前提条件とはしない。

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
205	経済学演習α(牛丸聡)	通年	3年以上：4単位	牛丸 聡 政政・経演・国演

**副題** わが国財政のあり方の検討

**講義概要** 少子・高齢化や女性の社会進出などの社会構造の変化や低成長をはじめとした経済構造の変化に対応させて、また、国際社会においてわが国が信頼される役割を果たすためにも、私たちはわが国財政のあり方を改めて検討しなければならない。本演習では、そうした事柄に関心をもつ学生が集まり、わが国の財政に関するテーマを自由に選択し、それについて研究を行い、今後のわが国のあり方について熱く議論する。

**シラバス(授業計画)**

第1回：(前期) 班活動(1) 同時に個別指導  
 第2回：(前期) 班活動(2) 同時に個別指導  
 第3回：(前期) 班活動(3) 同時に個別指導  
 第4回：(前期) 班活動(4) 同時に個別指導  
 第5回：(前期) 班活動(5) 同時に個別指導  
 第6回：(前期) 班活動(6) 同時に個別指導  
 第7回：(前期) 班活動(7) 同時に個別指導  
 第8回：(前期) 班活動(8) 同時に個別指導  
 第9回：(前期) 班活動(9) 同時に個別指導  
 第10回：(前期) 班活動(10) 同時に個別指導  
 第11回：(前期) 班活動(11) 同時に個別指導  
 第12回：各班における報告会・質疑応答(1)  
 第13回：各班における報告会・質疑応答(2)  
 第14回：前期学習のまとめ  
 第15回：反省と後期に向けての打ち合わせ  
 第16回：(後期) イベントに向けての準備と学習(1) 同時に個別指導  
 第17回：(後期) イベントに向けての準備と学習(2) 同時に個別指導  
 第18回：(後期) イベントに向けての準備と学習(3) 同時に個別指導  
 第19回：(後期) イベントに向けての準備と学習(4) 同時に個別指導  
 第20回：(後期) イベントに向けての準備と学習(5) 同時に個別指導  
 第21回：(後期) イベントに向けての準備と学習(6) 同時に個別指導  
 第22回：(後期) イベントに向けての準備と学習(7) 同時に個別指導  
 第23回：(後期) イベントに向けての準備と学習(8) 同時に個別指導  
 第24回：(後期) イベントに向けての準備と学習(9) 同時に個別指導  
 第25回：(後期) イベントに向けての準備と学習(10) 同時に個別指導  
 第26回：(後期) イベントに向けての準備と学習(11) 同時に個別指導  
 第27回：公開イベント開催  
 第28回：公開イベントに関する反省  
 第29回～第30回：1年におけるゼミ学習の総括

**教科書**

**参考文献**

**評価方法** 3年生の場合には最後に提出してもらったレポート、4年生の場合には卒業論文の内容が評価のベースとなるが、それとともに重要であるのは、毎回のゼミ活動における態度である。出席状況、班活動における勉強や議論における発言、加えて、個人研究の状況なども評価対象とする。

**関連URL**

**備考** 学生に対する要望：  
 (1) ゼミを重視し、ゼミ活動に必ず出席してほしい。  
 (2) なごやかさの中にも厳しさをもち、人間としてお互いを尊重し、同時に協調の中でともに学ぶという姿勢を大切にしようとする学生の参加を期待している。  
 (3) 勉強を一所懸命にやることはもちろんだが、それとともに、視野を広くもち、趣味も豊かで、人間や社会のあり方について誠実に語る学生であってほしい。  
 (4) 私の財政学を必ず受講してほしい。すでに他の財政学を受講した学生も重ねて私の財政学を是非に聴講してほしい。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
206	経済学演習α(荻沼隆)	通年	3年以上：4単位	荻沼 隆
				政政・経演・国演

**副 題** 不完全情報とゲームの理論を中心としたマイクロ経済学

**講義概要** この演習では、主に、不完全情報の経済学とゲームの理論を用いた経済分析を学ぶ。この分野は、マイクロ経済学の中級レベル以上のテキストにはほとんど含まれているが、マイクロ経済学の講義の中では、通常部分的にしかカバーできていない。この講義では、まず不完全情報の経済学とゲームの理論の標準的な内容を学習する。その上で、限定合理性を考慮した分析のように発展的な研究を行うか、特定の分野に関するやや現実的な応用研究を行うことを目的とする。

**シラバス  
(授業計画)** 第1回～第15回：マイクロ経済学もしくはゲーム理論のテキストを輪読し、その内容について議論する。  
第16回～第30回：ゲーム理論もしくは行動経済学についてのテキストを輪読し、その内容について議論する。

**教科書** 未定。

**参考文献** 未定。

**評価方法** 演習への貢献とレポートの提出も考慮する。最終的には、4年次のゼミ論文の提出が評価対象になる。

**関連URL**

**備 考** 学生に対する要望：マイクロ経済学とゲーム理論に関係する演習なので、演習参加者は、事前にマイクロ経済学とゲーム理論の基礎知識があることが望まれる。それがあまりない場合は、演習での最初のテキストブックの学習の時点で、キャッチアップするやる気のあることが前提条件になる。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
207	経済学演習α(笠松学)	通年	3年以上：4単位	笠松 学 政政・経演・国演

## 副題

経済成長と所得分配

## 講義概要

一国内で毎年新たに生産される生産物（GDP）は、長い期間で見ると増加する場  
合が多い。これを経済成長という。他方このGDPは所得として主体に分配される。  
また人々は、遺贈・相続・贈与といったかたちで、富をやり取りする。このような  
所得や富の分配と経済成長との関係について調べる。

本演習では経済成長と分配に関する様々な問題、たとえば、GDPは賃金と利潤と  
にどのような仕組みで分配されるのか、分配のされ方で経済成長率が変わってくる  
のか、世界の中の貧しい国々は豊かな国々に追い付くことができるのか、あるい  
は、少子・長寿化は分配にどのような影響を及ぼすのか、といった問題を、文献を  
読みながら、あるいは議論をしながら考え、経済学の一層着実な理解の助けとす  
る。

最後に、そうした中から各自でテーマを選び、一つの論文として仕上げる。

## シラバス (授業計画)

第1回～第5回：成長論の検討・討論  
第6回～第10回：分配理論の検討・討論  
第11回～第15回：成長・分配理論の応用  
第16回～第22回：各時のテーマに基く発表・討論  
第23回～第29回：卒業論文の中間報告・討論  
第30回：まとめ

## 教科書

前期は、基礎的な知識を身に付けるために使う。テキストを使用するかは参加者と  
相談して決める予定。

## 参考文献

フォーリー&マイクル（佐藤・笠松監訳）、『成長と分配』（2002年、日本経済評  
論社）を参照すると成長・分配理論の内容の一部を知ることができる。

## 評価方法

授業での報告・討論、作成する論文に基いて判断する。

## 関連URL

## 備考

演習は、講義では十分にできない小人数の参加者間での質疑応答や議論を通じて、  
自分の経済学（に止まらない、その他の分野の）理解を確認し、深めるために絶好  
の機会となる。また、これまでの経済学の勉強内容に不安がある場合でも、それを  
解決できる絶好の場にもなる。積極的に活用して欲しい。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
208	経済学演習α(川口浩)	通年	3年以上：4単位	川口 浩 政政・経演・国演

## 副 題

日本経済の歴史的展開とその経済思想

## 講義概要

経済という行為は、時代・地域を問うことのない人間の普遍的な営為の一つである。しかし、経済の実態は、それが有限定された時代・地域における特定の人々の行為の結果である故に、一様なものではあり得ない。日本列島と呼ばれる地域に展開した経済も、地理的・時代的条件とそこに生きた人々の特質とが作り上げた一つの人間活動の結果である。

本演習は、日本における近世～近現代の経済の実態、及びそれを担った人々の経済思想に接近することを課題とする。

ゼミ生の選考に際してはあらかじめレポートを提出してもらい、そのうえで面接を行う。選考の第1基準は、積極的な学習姿勢である。各週の授業は勿論、合宿その他の活動への積極的参加も必須である。また、本演習の参加者には、すべての経済史関係科目の履修を義務づける。

## シラバス (授業計画)

第1回：ゼミの運営について説明

第2回～第29回：文献輪読と討論

第30回：評価とまとめ

## 教科書

## 参考文献

太田愛之・川口 浩・藤井信幸『日本経済の二千年』（勁草書房、2006年）

川口 浩編著『日本の経済思想世界』（日本経済評論社、2004年）

## 評価方法

活動の積極性ならびに論文の完成度。

## 関連URL

<http://www.waseda.jp/sem-jp-kei-sisou/index.html>

## 備 考

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
209	経済学演習α(古賀勝次郎)	通年	3年以上：4単位	古賀 勝次郎 政政・経演・国演

**副題** 自由主義の政治経済学研究

**講義概要** 近代社会はこれまで、大まかに言って、自由主義と社会主義との対立を軸として展開してきた。しかし近年の社会主義に対する知的信頼の低下で、最近では自由主義陣営内部の対立となって、英米型自由主義、ドイツ型(オルドー)自由主義、修正自由主義(社会民主主義もこれに入る)などが相争っているのが現状である。この争いの中から、どのような新しい二十一世紀に相応しい自由主義が生まれてくるのか興味深い。まずは自由主義の歴史を正確に理解することが重要で、J・ロック、D・ヒューム、A・スミス、J・S・ミルから現代のJ・ロールズやF・ハイエクに至るまでの自由主義の政治経済学を学ぶことにする。

**シラバス(授業計画)**  
 第1回～第6回：『経済学：名誉と現代』（日本経済新聞社）講読  
 第7回～第10回：『アダム・スミス』（堂目卓生著、中公新書）講読  
 第11回～第15回：『ハンナ・アーレント入門』（杉浦敏子著、藤原書店）講読  
 第16回～第30回：個人研究発表  
 その他合宿で発表 9月下旬 夏合宿（2泊3日）  
 12月下旬 冬合宿（2泊3日）

**教科書**

**参考文献** 大河内一男『アダム・スミス』（講談社）、拙著『ヒューム体系の哲学的基礎』（行人社）、トマス『J・S・ミル』（雄松堂）、渡辺幹雄『ロールズ正義論とその周辺』（春秋社）、拙著『ハイエクと新自由主義』（行人社）、八木他編『経済思想史』（名大出版会）。

**評価方法** αは研究発表70%、授業中の討論30%。βは、卒業論文が70%、授業中の討論30%。

**関連URL**

**備考**

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
210	経済学演習α(西郷浩)	通年	3年以上：4単位	西郷 浩
				政政・経演・国演

**副 題** 社会分析のための統計的手法

**講義概要** 社会の実証分析に使われる統計的手法の理論を学習し、それを分析用具として各自のテーマに応じて実際のデータを分析する。

社会の動きは統計データによってとらえられる。したがって、社会の動きを分析し、その将来を予測するためには、統計的手法が不可欠である。この演習の目的は、それらの分析手法の理論的な基礎を学習し、それを応用して実証分析をおこなうことにある。

1年度配当の「統計学入門」および「統計学」を前提として、テキストを選択する。したがって、これら2科目を履習済もしくは受講中であることが応募の要件である。演習参加者には、合宿および集中ゼミへの参加を義務づける。このため、それらに必ず参加できることも応募の要件である。

この他、3年進級時に残り2年間で卒業できる単位数を取得していること、普段の講義の出席状況がよいことも必要である。

**シラバス  
(授業計画)**

第1回：教科書の決定、年間予定の確認  
第2回～第29回：教科書の輪読(1)～(28)  
第30回：教科書の輪読(29)、ゼミレポート提出

**教科書**

社会の分析に使われる統計分析の手法を解説した教科書を、受講者確定後に決定します。

フリーソフトウェア Rによる統計分析をあつかった教科書を選ぶ予定です。

**参考文献**

**評価方法**

ゼミにおける討論への参加状況とゼミレポートとの総合評価による。

**関連URL**

<http://www.f.waseda.jp/saigo/>

**備考**

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
211	経済学演習α(笹倉和幸)	通年	3年以上：4単位	笹倉 和幸 政政・経演・国演

**副題** マクロ経済理論の基礎研究

**講義概要** 1年次の「経済学入門A・B」、2年次の「マクロ経済学α・β」の延長として、マクロ経済学の理論について様々な角度から研究する。  
 具体的には、マクロ経済理論に関する学術文献（英文を含む）の読解、そしてそれに基づく報告・議論がこのゼミの中心である。それらを通して、マクロ経済学のどの部分が正しくて、どの部分がそうでないか（そしてさらには、どうすればそれを克服できるか）、という（壮大な）問いに対して自分自身の答えを少しでも見つけてほしい。  
 マクロ経済学のゼミであるため、マクロ経済学βを履修中か来年度履修予定であることが望ましい。  
 このゼミでは（たとえばサブプライム問題や戦後日本の経済発展というような）時事的・実証的内容は直接的な研究対象ではない。

**シラバス(授業計画)**

第1回：ケインズ『一般理論』	第16回：IS-LMモデルの理論的整合性
第2回：古典派理論とセイの法則	第17回：短期モデルと長期モデルの統合に向けて
第3回：有効需要の原理	第18回：サミュエルソンの新古典派総合
第4回：消費理論	第19回：IS-LMモデル、AD-ASモデル、ソロー・モデル
第5回：乗数理論	第20回：2部門モデル
第6回：投資理論	第21回：消費財市場の均衡
第7回：流動性選好説	第22回：投資財市場の均衡
第8回：貨幣数量説	第23回：長期の定義
第9回：ハロッドの経済動学	第24回：黄金律状態の分析
第10回：ケインズ派の景気循環理論	第25回：消費関数論争
第11回：ヒックスとIS-LMモデル	第26回：トービンのq
第12回：マネタリズムと合理的期待形成学派	第27回：MM定理
第13回：新しいケインズ派経済学	第28回：動学的最適化理論とマクロ経済理論
第14回：新古典派経済成長理論	第29回：オイラー方程式と横断性条件
第15回：フリードマンとケインズ	第30回：リアル・ビジネス・サイクルの理論

**教科書**

- 笹倉和幸『標準 マクロ経済学』東洋経済新報社、2008年。
- ケインズ（塩野谷祐一訳）『雇用・利子および貨幣の一般理論』東洋経済新報社、1995年。
- 笹倉和幸「The Harrod Discontinuity and Macroeconomics」『早稲田政治経済学雑誌』、2009年。
- 笹倉和幸「Finding Another Linkage between the Short Run and the Long Run」同上、2008年。
- A. C. チャン（小田正雄他訳）『動学的最適化の基礎』シーエービー出版、2006年。

**参考文献**

- スノードン、ヴェイン（岡地勝二訳）『マクロ経済学はどこまで進んだか』東洋経済新報社、2001年。
- Mankiw, 2006, “The Macroeconomist as Scientist and Engineer,” Journal of Economic Perspective.
- 吉川洋『現代マクロ経済学』創文社、2000年。
- Modigliani, 1944, “Liquidity Preference and the Theory of Interest and Money,” *Econometrica*.

**評価方法** ゼミへの全出席と平素の積極的取り組みが大前提である。そのうえで、3年次はタームペーパー、4年次はゼミ論文の質で評価する。

**関連URL**

**備考** 英語力と数学力が必要である。

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
212	経済学演習α(清水元)	通年	3年以上：4単位	清水元 政政・経演・国演

**副題**

日本・東南アジア関係の歴史的省察

**講義概要**

現代の世界経済では、米・欧・アジアという三極化への動きが顕著である。欧米における欧州連合(EU)や北米自由貿易協定(NAFTA)に対して、アジアでもさまざまな経済的地域主義の胎動が見られる。こうした世界経済の動向を前にして、経済的なグローバル・パワーであると同時に「アジアの一員」でもある日本はきわめて難しい選択を迫られている。冷戦構造の崩壊は日米関係に再考を迫る要因だが、日本は、アジアの地域主義を選択するにしても、戦前期にみずから提起した地域主義構想としての「大東亜共栄圏」の挫折という負の歴史的遺産になんらかの知的決着をつけることが不可欠だからである。本演習では、明治期から昭和戦前期までの、近代日本と東南アジアとの関係の歴史を再検討することによって、現代世界における日本の選択の条件と今後の日本・東南アジア関係のあり方を考えたい。

日本と東南アジアとの関係史に関する基本文献の輪読(分担発表形式)を主とするが、資料の検索・調査の方法、プレゼンテーション、ディベートの仕方、レジュメ、レポートの書き方等を習得することも目的の一つである。

**シラバス  
(授業計画)**

- 第1回：問題の所在ー近代日本と東南アジア
- 第2回：戦前期のフィリピンと日本(1)
- 第3回：戦前期のフィリピンと日本(2)
- 第4回：戦中期のフィリピンと日本
- 第5回：戦後のフィリピンと日本(1)
- 第6回：戦後のフィリピンと日本(2)
- 第7回：戦前期のインドネシアと日本(1)
- 第8回：戦前期のインドネシアと日本(2)
- 第9回：戦中期のインドネシアと日本
- 第10回：戦後のインドネシアと日本(1)
- 第11回：戦後のインドネシアと日本(2)
- 第12回：戦前期のベトナムと日本(1)
- 第13回：戦前期のベトナムと日本(2)
- 第14回：戦中期のベトナムと日本
- 第15回：戦後のベトナムと日本(1)
- 第16回：戦後のベトナムと日本(2)
- 第17回：戦前期のタイと日本
- 第18回：戦中期のタイと日本
- 第19回：戦後のタイと日本(1)
- 第20回：戦後のタイと日本(2)
- 第21回：戦前期のマレーシア・シンガポールと日本(1)
- 第22回：戦前期のマレーシア・シンガポールと日本(2)
- 第23回：戦中期のマレーシア・シンガポールと日本
- 第24回：戦後のマレーシア・シンガポールと日本(1)
- 第25回：戦後のマレーシア・シンガポールと日本(2)
- 第26回：戦前期のミャンマーと日本
- 第27回：戦中期のミャンマーと日本
- 第28回：戦後のミャンマーと日本(1)
- 第29回：戦後のミャンマーと日本(2)
- 第30回：総括

**教科書**

**参考文献**

- (1) 矢野 暢『南進の系譜』(中公新書)、(2) 清水 元編『両大戦間期日本・東南アジア関係の諸相』(アジア経済研究所)、(3) 杉山伸也・I. ブラウン編『戦間期東南アジアの経済摩擦』(同文館)、(4) 矢野 暢編『東南アジアと日本』(弘文堂)、(5) 後藤乾一『近代日本と東南アジア』(岩波書店)、(6) 萩原宣之・後藤乾一編『東南アジア史のなかの近代日本』(みすず書房)、(7) 吉川利治編『近現代史のなかの日本と東南アジア』(東京書籍)、(8) 清水 洋・平川 均『からゆきさんと経済進出』(コモンズ)、宮城大蔵『「海洋国家」日本の戦後史』(筑摩書房)など。

**評価方法**

出席率・卒業論文・レポート・ゼミ報告等の成績により総合的に評価する。

**関連URL**

**備考**

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
213	経済学演習α(清水英彦)	通年	3年以上：4単位	清水 英彦 政政・経演・国演

**副題** 社会保障の理論的・実証的研究

**講義概要** わが国の社会保障制度は1980-90年代に大きな改革が行われた。その主な要因は財政危機と人口の少子高齢化であった。2000年代に入り、人口の少子高齢化はさらに進行し、80-90年代の大改革にもかかわらず、わが国の社会保障制度の財政的規模は今後一層拡大するものと予想される。このため、国民経済に及ぼす社会保障制度の経済的影響力もますます増大しようとしている。

そこで本研究では、このような社会保障の国民経済に対する経済的影響、とくに所得再分配、経済安定、経済成長等に及ぼす影響を理論および実証の両面から検討していくことにする。

## シラバス (授業計画)

第1回：イントロダクション  
 第2回～第10回：テキスト輪読・発表  
 第11回：ディベート(ゼミ合宿)  
 第12回～第13回：卒論テーマ発表・指導(ゼミ合宿)  
 第14回～第21回：4年卒論発表・指導(3・4年合同ゼミ)  
 第22回～第29回：3年卒論発表・指導  
 第30回：まとめと今後に向けての指導

**教科書** 最初のゼミにおいて指示する。

**参考文献** 適宜指示する。

**評価方法** 3年次においては、ゼミの発表、ゼミ活動への参加、提出されたレポート等を総合的に判断して評価を行う。

## 関連URL

**備考** 3年次前期に、「社会保障論」の講義を必ず受講すること。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
214	経済学演習α(白木三秀)	通年	3年以上：4単位	白木 三秀 政政・経演・国演

## 副題

労働に関する国際比較研究

## 講義概要

本演習では「21世紀の労働・仕事」に関する国際比較研究を行う。仕事・労働は人間社会が続く限り、未来永劫に続く研究課題である。

経済社会では現在、短期的のみならず中長期的にも様々な変化が起こっている。経済環境の変動にともなって、労働市場、職業構造、キャリア、仕事内容、労働者意識などが変わる。またこれに応じる形で、企業内の人的資源管理、政府の労働政策も変化しつつあるが、経済活動がグローバル化しているため、広い視野が必要とされている。本演習では、「現代における労働の国際比較」に的を絞り、それを掘り下げて検討していきたい。

## シラバス (授業計画)

第1回～第15回：テキストをグループで発表し、コメンテーターからコメントを受け、質疑に答える。

第16回～第18回：他大学とのディベートを行う。

第19回～第30回：テキストの報告、コメント、質疑を行うとともに、4年生の卒論の報告、質疑を行う。

## 教科書

その都度、提示する。

## 参考文献

その都度、提示する。

## 評価方法

日頃の積極的な参加がすべてである。4年次には卒論を納得のいくレベルとすべく全力投球する過程を重視したい。

## 関連URL

## 備考

取得が望ましい科目：社会政策

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
215	経済学演習α(鈴木健夫)	通年	3年以上：4単位	鈴木 健夫 政政・経演・国演

**副題**

「越境」の歴史世界

**講義概要**

本演習では、参加者全員によって共同研究を行うとともに、各人は自分の演習論文（次年度末に提出）の完成に向けてレポートを作成する。

共同研究のテーマは、「越境の歴史世界」である。

人間社会にはさまざまな「境界」がある。自然的・地域的境界・民族的境界・政治的・行政的境界、経済的境界、宗教的境界、文化的境界等々、人びとはこのあまたある。「境界」のなかで、そして同時にこれら相互に織り成す「境界」を越えて、日々の生活を送っている。こうした「境界」は混じりあうことで「共生」を実現していることが多いが、同時に、「境界」をめぐるさまざまな争いが日常的・非日常的におこっている。もとより、これらの「境界」は人びとの自然との、他の民族との、他の国家との、他の経済圏との、他の宗教との、他の文化等々との「共生」を阻害してはならないし、むしろそうした他の世界との「共生」を支え、それを確かにするものでなければならない。今日、グローバリズムの大きな波が世界を襲い、インターネットが「境界」の現実性を失わせているなかで、だからこそ、まさにこの現代の位相に身をおいて上記のようなさまざまな、歴史上の幾度も再生されてきたともいえる「境界」の意義を改めて考察し、今後の人間社会の在り方にひとつの展望を与えることが要請されている。本演習では、以上のような問題性を認識し、ヨーロッパ社会経済史のなかでの「越境」の歴史世界を検討する。

各人は、同時に、ヨーロッパ社会経済史の諸問題から自分の演習論文のテーマを設定し、何度か口頭発表・議論を行い、レポートを書く。演習論文は次年度の「専門演習β」で完成させる。

**シラバス  
(授業計画)**

第1回：本演習の具体的活動の説明

第2回～第12回：ヨーロッパ社会経済史の流れを勉強し、各人の論文テーマをみつけるために、履修者の分担により、教科書の各章について内容を報告し、コメントする

第13回～第15回：ヨーロッパ社会経済史の全体的検討と各履修者による論文テーマの設定

第16回：共同研究「「越境」の歴史世界」についての趣旨説明

第17回～第25回：共同研究「「越境」の歴史世界」について各履修者による分担課題の報告

第26回～第27回：共同研究「「越境」の歴史世界」についての全体討論

第28回～第30回：各履修者の論文テーマについての報告およびレポート提出

**教科書**

『ヨーロッパ経済：過去からの照射』（朝倉弘教・内田日出海著）、『あなたが歴史と出会うとき：経済の視点から』（堺憲一）

**参考文献**

授業中に指示する。

**評価方法**

授業・合宿での報告・議論、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

**関連URL**

**備考**

「経済史入門」「西洋経済史」等の経済史関連科目を履修していることが望ましい。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
216	経済学演習α(田中久稔)	通年	3年以上：4単位	田中 久稔 政政・経演・国演

## 副題

理論経済学を学ぶための数学的・統計学的な手法の習得

## 講義概要

この演習では理論経済学を学ぶために必要となる、数学的・統計学的な手法を身につけることを目標としています。演習では、大学院レベルの書籍を一冊選び、ゼミでの議論を通じて完璧な理解を目指します。2009年度は、齊藤 誠(2006)「新しいマクロ経済学(新版版)」有斐閣を読み、動学的マクロ経済学に用いる最大値原理と動的計画法に焦点を当てました。2010年度は、指定された教科書を読み「繰り返し計算法」によるマクロ経済モデルのシミュレーション手法を習得します。

レポート作成に必要となるpLaTeXや、シミュレーション計算に用いる統計処理言語Rなどのプログラミング言語の習得も授業に並行して行います。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：発表者の順番割り振り。pLaTeXの簡単な解説。
- 第2回：動的計画法の基礎1
- 第3回：動的計画法の基礎2
- 第4回：動的計画法の基礎3
- 第5回：動的計画法の基礎4
- 第6回：動的計画法の基礎5
- 第7回：動的計画法の応用：最適消費問題1
- 第8回：動的計画法の応用：最適消費問題2
- 第9回：動的計画法の応用：最適消費問題3
- 第10回：動的計画法の応用：最適消費問題4
- 第11回：動的計画法の応用：資産価格決定問題1
- 第12回：動的計画法の応用：資産価格決定問題2
- 第13回：動的計画法の応用：資産価格決定問題3
- 第14回：動的計画法の応用：資産価格決定問題4
- 第15回：動的計画法の応用：資産価格決定問題5
- 第16回：発表者の順番割り振り。Rのインストールと簡単な解説。
- 第17回：動的計画法の実際：繰り返し計算による数値計算法1
- 第18回：動的計画法の実際：繰り返し計算による数値計算法2
- 第19回：動的計画法の実際：繰り返し計算による数値計算法3
- 第20回：動的計画法の実際：繰り返し計算による数値計算法4
- 第21回：動的計画法の実際：繰り返し計算による数値計算法5
- 第22回：動的計画法の実際：GMMによる推定法1
- 第23回：動的計画法の実際：GMMによる推定法2
- 第24回：動的計画法の実際：GMMによる推定法3
- 第25回：動的計画法の実際：GMMによる推定法4
- 第26回：動的計画法の実際：GMMによる推定法5
- 第27回：論文を読む：ソロー
- 第28回：論文を読む：ルーカス1
- 第29回：論文を読む：ルーカス2
- 第30回：まとめ。

## 教科書

J. Adda and R. Cooper (2003), ``Dynamic Economics: Quantitative Methods and Applications,`` The MIT Press

## 参考文献

とくになし。

## 評価方法

講義内でおこなうプレゼンテーションの客観評価によります。

## 関連URL

<http://hstnk.txt-nifty.com/blog/>

## 備考

担当教員による経済数学Aを受講済みであれば前提となる知識は十分です。また経済理論や数学が苦手な学生であっても、チャレンジする意欲があるならおおいに歓迎します。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
217	経済学演習α(永田良)	通年	3年以上：4単位	永田 良 政政・経演・国演

## 副題

ミクロ経済学の行方を考える

## 講義概要

ミクロ経済学は、近年、その内容に大きな変化が現われて来ている。それは従来のオーソドックスな部分均衡・一般均衡から成る理論体系に加えて、不確実性や情報の非対称性下での意志決定論とゲーム理論とから成る新たな分野が急速に発展・拡大し大きな一角を占めるに至っていることである。前者は経済社会における市場の働きに焦点がおかれるが、後者では、種々の現実的な条件の下での個人（あるいは個人対個人、組織対個人）の合理的経済行動に重点がおかれる。（比喩的に言えば、前者はミクロ-マクロ的理論、後者はミクロ-ミクロ的理論と言えるかもしれない。）現在では、これら2つの体系が2重構造を成してミクロ経済学を形作っているとさえ言える。このように短期間のうちに急激に変化しているミクロ経済学に対し、本演習では、旧来の体系と新たな体系を比較したり、新たな分野の内容に分け入ったりしてそのダイナミズムの源泉や行く末などを考えて見たいと思う。尚、受講者の関心によって重点の置き方を変える場合もある。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：ミクロ経済学の歴史
- 第2回：ミクロ経済学の現状
- 第3回：伝統的ミクロ経済学の展望：特徴と問題点 ～15回まで
- 第4回～第6回：家計行動
- 第7回～第9回：企業行動
- 第10回～第13回：市場の理論（完全競争と不完全競争）
- 第14回～第15回：一般均衡理論
- 第16回：伝統的理論から新潮流へ
- 第17回：ゲーム理論の有効性
- 第18回：ワンショットゲーム
- 第19回：逐次ゲーム
- 第20回：くり返しゲーム
- 第21回：不完備情報ゲーム
- 第22回：ゲーム理論の応用
- 第23回～第27回：独占と寡占の理論
- 第28回：不確実性と情報の非対称性の重要性
- 第29回：保険市場
- 第30回：労働市場

## 教科書

## 参考文献

## 評価方法

- 以下、これらを統合して評価する。
- ・出席回数
  - ・報告及び質疑応答
  - ・年末筆記試験（又はレポート）

## 関連URL

## 備考

ミクロ経済理論の研究という性格上、数学的知識は必要不可欠である。受講者には、ミクロ経済学の履修に加えて、解析学・線形代数の十分な理解が要求される。

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
218	経済学演習α(中村慎一郎)	通年	3年以上：4単位	中村 慎一郎 政政・経演・国演

**副題**

産業エコロジーIndustrial Ecology

**講義概要**

企業経営、政府の政策立案、消費者行動において環境への配慮が無視できなくなっている。産業エコロジー（Industrial Ecology）は環境と経済活動との関わりを定量的・実務的に捉える分野であり、ISO化され多くの企業で採用されている製品環境影響評価手法であるLCA（ライフサイクルアセスメント）、資源循環を包括的・視覚的に捉える手法として広く使われているMFA（マテリアルフロー分析）、および製品のライフサイクル全体を通じた経済性評価手法であるLCC（ライフサイクル費用計算）を主な手法として含む。本演習の目的は、実社会において広く使われており、環境問題の深化と共に今後ますますその重要性を増すであろうこれらの手法を正しく理解し、実際に応用できるようになることである。

ここにおける重要なキーワードは生産・使用・廃棄から成る製品ライフサイクルである。環境問題はシステム全体に関わることであるので、相互依存関係を対象とする経済学の観点には役に立つものが少なくない。しかし、従来の経済学では使用・廃棄段階の問題を明示的に扱うことが極めて少なかった。たとえば、廃棄物は生産・消費に伴い必ず発生するが、標準的のミクロ経済学では廃棄物の記述が無い。本演習は、諸君の経済学知識を最大限生かしつつ、産業生態学的な視点の涵養に勤める。産業生態学が対象とする現実の環境問題においては技術的・制度的側面が重要であるので、分析道具として用いる産業連関分析・回帰分析の他にこれも学習する。

参考書・その他の準備については、研究室ホームページ

<http://www.f.waseda.jp/nakashin/index-j.html>

で通知する。

キーワード：製品ライフサイクル、LCA、LCC、MFA、環境効率、持続可能な生産と消費

**シラバス  
(授業計画)**

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 第1回：IE入門        | 第16回：LCC 2    |
| 第2回：製品ライフサイクル 1 | 第17回：LCC 3    |
| 第3回：製品ライフサイクル 2 | 第18回：LCC 4    |
| 第4回：製品ライフサイクル 3 | 第19回：LCC 5    |
| 第5回：製品ライフサイクル 4 | 第20回：MFA 1    |
| 第6回：廃棄物と廃棄物処理 1 | 第21回：MFA 2    |
| 第7回：廃棄物と廃棄物処理 2 | 第22回：MFA 3    |
| 第8回：廃棄物と廃棄物処理 3 | 第23回：MFA 4    |
| 第9回：廃棄物と廃棄物処理 4 | 第24回：MFA 5    |
| 第10回：LCA 1      | 第25回：応用事例研究 1 |
| 第11回：LCA 2      | 第26回：応用事例研究 2 |
| 第12回：LCA 3      | 第27回：応用事例研究 3 |
| 第13回：LCA 4      | 第28回：応用事例研究 4 |
| 第14回：LCA 5      | 第29回：応用事例研究 5 |
| 第15回：LCC 1      | 第30回：IE総括     |

**教科書**

田中 勝「廃棄物学概論」丸善  
監修 稲葉 敦「LCAの実務」社団法人 産業環境管理協会  
中村慎一郎「エクセルで学ぶ産業連関分析」エコノミスト社

**参考文献**

田中 勝「廃棄物学概論」丸善  
松藤敏彦「リサイクルと環境」三共出版

**評価方法**

平常点50% 卒論50%

**関連URL**

<http://www.f.waseda.jp/nakashin/index-j.html>

**備考**

環境分野は日進月歩の世界である。演習においては教科書の情報が陳腐化している可能性が少なくないので、webなどから最新情報を入手することが必要である。留意されたい。

## 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
219	経済学演習α(南部宣行)	通年	3年以上：4単位	南部 宣行 政政・経演・国演

**副 題** 近代イギリス社会経済史

**講義概要** 18世紀中葉以降におけるイギリスの経済ならびに社会に関する諸問題を検討する。履修者各自のテーマは、産業革命期、およびそれ以降、第1次大戦に至る時期に関するものであることが最も望ましい。しかし、現代とのかかわりにも強く関心をもっており、上述の主要テーマの範囲内であるならば、それ以降の時期、あるいは現代の諸問題、例えば、「イギリス病」、EU加盟、失業等の諸問題であっても構わない。これらのテーマの選択は各自の自由に任されている。各自の報告を重視しているので、すでにテーマが定められており、明確な問題意識をもっている履修生を望んでいる。

**シラバス  
(授業計画)**

第1回～第2回：論文作成指導－基本的構成、様式、体裁、具体例等－  
 第3回～第4回：履修生の課題に参考となるような一般的な文献の紹介  
 第5回～第13回：履修生の課題に関連する文献の講読  
 第14回～第15回：論文作成進捗報告書に基づく、履修生に対する個別面接  
 第16回～第17回：履修生の課題に参考となるような文献の紹介  
 第18回～第24回：履修生各自の個別課題に関連する文献の講読  
 第25回～第28回：履修生各自による研究経過報告  
 第29回～第30回：論文作成進捗報告書に基づく、履修生に対する個別面接

**教科書** とくにはない。

**参考文献** 履修生各自のテーマに沿った関連文献を紹介

**評価方法** 履修生各自の報告、および各期末時提出の論文作成進捗報告書（仮論文や本論文を含む）と面接

**関連URL**

**備 考** 関連科目：「西洋経済史」、「経済史入門」等の講義をすでにあるいは併行して履修していることが望ましい。  
 その他：サブ・ゼミや合宿等、正規授業時間以外の活動にも、可能な限り応ずる用意があるので、積極的な履修者を求めている。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
220	経済学演習α(野口和也)	通年	3年以上：4単位	野口 和也 政政・経演・国演

## 副題

経済分析と統計的方法

## 講義概要

経済分析と統計的方法 講義内容：現代社会は情報化の時代であるといわれている。このような時代においては、統計データとして与えられた情報をどのようにして解釈・分析し、その結果をもとにして新たな情報を提供するためには、どのような方法によれば良いかを考える必要がある。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：1年間の方針と授業計画について
- 第2回～第3回：統計学の基本的知識の復習1
- 第4回：統計データの視覚的表現1
- 第5回：統計データの視覚的表現2
- 第6回：モーメント・標準化など
- 第7回：統計的関係の分析1
- 第8回：統計的関係の分析2
- 第9回：簡単なモデルによる推計と予測1
- 第10回：簡単なモデルによる推計と予測2
- 第11回：ノンパラメトリックな問題
- 第12回：確率分布とシミュレーション1
- 第13回：確率分布とシミュレーション2
- 第14回：タームペーパーの作成計画について
- 第15回：各自のタームペーパー計画の発表
- 第16回：多変量解析1
- 第17回：多変量解析2
- 第18回：多変量解析3
- 第19回：多変量解析4
- 第20回：多変量解析5
- 第21回：時系列分析1
- 第22回：時系列分析2
- 第23回：タームペーパーに関するデータのスクリーニング
- 第24回：タームペーパーに関する報告1
- 第25回：タームペーパーに関する報告2
- 第26回：タームペーパーに関する報告3
- 第27回：タームペーパーに関する報告4
- 第28回：問題点と修正点に関する討論
- 第29回：計算手法の検討
- 第30回：最終報告と修正点の検討

## 教科書

未定

## 参考文献

演習中に指示。

## 評価方法

平常点および小論文（タームペーパー）

## 関連URL

## 備考

応募条件として、「統計学」をすでに履修済みか、3年前期に履修予定であること。  
コンピュータにかんしてはまったくの初心者であっても良いが、少なくとも興味を持っていること。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
221	経済学演習α(馬場義久)	通年	3年以上：4単位	馬場 義久 政政・経演・国演

**副題** わが国の財政システムに関する研究

**講義概要** ゼミナールの共通テーマとしては、現行日本の財政システムに関する研究を行う。たとえば、税制の問題点と改革の方向、財政赤字分析、年金・医療・福祉など社会保障のあり方、地方分権制度の構築などが課題として挙げられる。6月末まで財政学のテキストを皆で輪読し、その後、3ないし4のグループに分かれ研究を進めグループ論文を作成する。ゼミナールであるので、独習だけでなく自由闊達な討論を通じてお互いに良い刺激を与えながら、これらの研究をすすめたい。ゼミ活動を通じて、自分なりに財政問題を考えるセンスを身に付けてもらいたいと思っている。

**シラバス  
(授業計画)**

第1回：イントロダクション ゼミ活動の年間予定確認  
 第2回から第7回まで 教科書第10章「社会保障を考える」を輪読予定  
 第8回から第13回まで 教科書第7章「地方税を徴収される」を輪読予定  
 第14回：グループ研究第1班および第2班の研究報告  
 第15回：グループ研究第3班および第4班の研究報告  
 第16回：グループ論文の書き方の指導および日程の打ち合わせ  
 第17回から第29回まで：グループ研究の報告（各回1グループずつ）  
 第30回：グループ論文の執筆上の再確認

**教科書** 横山・馬場・堀場『現代財政学』有斐閣 2009。

**参考文献** ゼミナールの開始時に参考文献リストを配布するほか、授業中に適宜紹介する。

**評価方法** ゼミナールでの出席状況、テキストの輪読及びグループ研究での発表内容と討論への参加状況、グループ論文のレベル、を総合的に勘案して判定する。グループ論文の未執筆者には単位を与えない。

**関連URL**

**備考**

- (i) ゼミ活動に前向きな諸君を特に歓迎したい。
- (ii) 財政学を現在履修中か、3年次に履修することを求める。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
222	経済学演習α(藤森頼明)	通年	3年以上：4単位	藤森 頼明 政政・経演・国演

## 副題

資本理論の総合的研究－経済構造の現在と未来

## 講義概要

生産と分配を巡る問題の研究を課題とする。  
最近の世界恐慌の事態は、市場行動を基礎とする経済理論の失敗をも意味している。これに対し、経済を構造の側面から分析する理論として、Marx的な経済理論がある。本演習では、Marxの発想を基礎として、現代経済をより深く理解すると共に、経済の未来像を議論することを大きな目標とする。  
Marxの理論は、価格理論、成長理論、経済循環論、恐慌論、その他、広範囲に及ぶものであるけれども、それを経済構造に基礎をおく理論と捉えれば、想像以上に統計データ等との親和性も高く、現代の経済をより深く理解するのにも有効である。  
演習では、区切りの良い箇所を、随時小論文等の作成指導を行う。

## シラバス (授業計画)

第1回：導入  
第2回～第10回：経済理論の議論に必要な基礎数学の演習。  
第11回～第29回：経済理論の基本図書を選択して輪読。基礎数学等の復習を随時含む。  
第30回：要約

## 教科書

最近、数年間で取上げたものは、J・ソロス『グローバル資本主義の危機』、幸島祥夫『バランスシートによる日本経済分析』、浜田浩児『93SNAの基礎』、等がある。2005年度はD. K. フォーリー『成長と分配』を使用している。2006年度は日本経済の産業関連表を用いた分析をテーマとした。その他、微分方程式の応用、線形代数の応用に関連する入門水準の参考書を使用した。

## 参考文献

開講時に指示する。下記関連URLをも参照の事。

## 評価方法

日常のゼミ活動への参加、積極性、年度末報告、ゼミ論文の総合評価による。

## 関連URL

<http://www.fujimori.cache.waseda.ac.jp>

## 備考

ゼミナールの概要については、関連URLの該当箇所をも参照の事。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
223	経済学演習α(船木由喜彦)	通年	3年以上：4単位	船木 由喜彦 政政・経演・国演

## 副題

ゲーム理論とその応用

## 講義概要

この演習では「ゲーム理論」の基礎理論ならびにそれに関連する経済学の諸分野（情報の経済学、産業組織論、環境経済学など）の問題を研究します。ゲーム理論とは、相互依存関係のある状況において、個人の合理的な行動を研究する学問です。

2年間をかけて自分の定めたテーマの卒業論文を作成し、最終的には卒論発表会で研究成果を報告することが目標となります。3年次はそのための基礎となる研究をおこないます。まずは、担当教員の用意するゲーム理論の平易な資料を輪読することから始める予定です。4年次では卒業論文の作成が主要な内容となります。

毎年、受講学生の1割から2割程度が大学院に進学します。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：自己紹介、テキスト選定
- 第2回～第19回：テキスト輪読
- 第20回～第23回：卒論テーマ設定（議論と面接）
- 第24回～第26回：卒論研究報告
- 第27回～第28回：4年生の卒論に対する討論
- 第29回：卒論発表会（4年生）と討論会
- 第30回：冬期休暇中の研究計画

## 教科書

担当教員の配付する資料またはテキストを用いる。

## 参考文献

- 中山、武藤、船木編著「ゲーム理論で解く」（有斐閣）
- 武藤滋夫「ゲーム理論入門」（日経文庫）
- 佐々木宏夫「入門ゲーム理論」（日本評論社）
- 梶井厚志「戦略的思考の技術」（中公新書）
- 船木由喜彦「演習ゲーム理論」（新世社）
- 岡田章「ゲーム理論・入門」（有斐閣アルマ）

## 評価方法

出席点、ゼミにおける報告および討議内容、卒業研究（およびその中間発表）を総合して評価します。

## 関連URL

<http://www.f.waseda.jp/funaki/wasyoko.html>

## 備考

学生に対する要望：受講希望学生に対する掲示を良く読んでください。

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
224	経済学演習α(堀内俊洋)	通年	3年以上：4単位	堀内 俊洋 政政・経演・国演

**副題**

企業、産業、経済、そしてドラッカー研究

**講義概要**

この演習では、生産、供給活動を担っている企業、そしてその集計といえる産業という切り口から経済現象を勉強する事を目的とする。企業活動といえば、主に経営学で考察されるものであるが、経済学の観点からも取り上げるわけである。関心はミクロ的で、応用ミクロ経済学の一つである産業組織論を経済学のベースとする。具体的には、そのような問題意識から、各人が、経営学者ドラッカーの古典的な名著の勉強に取り組む。多くの翻訳書が出版されているはずであるので、原著と照らし合わせながら勉強に取り組み、自分の力で思考する訓練をしてもらいたい。この3年時における各人の成果を4年の卒論に反映、産業組織論とドラッカー研究の総合化を演習で目指して欲しい。

**シラバス  
(授業計画)**

第1回～第5回：ドラッカー研究のねらい、対象、アプローチなどを解説。1年間の研究の方向性を討議

第6回～第10回：ドラッカーの各著書の研究発表、その1

第11回～第15回：ドラッカーの各著書の研究発表、その2

第16回～第20回：ドラッカーの各著書の研究発表、その3

第21回～第25回：ドラッカーの各著書の研究発表、その4

第26回～第30回：ドラッカーの各著書の研究発表、その5、および1年間の取りまとめ

**教科書**

とくになし。各自が選んだドラッカーの著作をいわば各自の教科書とする

**参考文献**

ドラッカーの関連書物

**評価方法**

出席と発表と期末レポートを中心に評価する。もし数回でも欠席をすればきわめて低い評価になるはずである。ただし、病気など特別の事情のある場合はもちろん配慮される。その上で、学年末に各自が取り組んだ名著のまとめもあわせ、総合的に評価する。4年での評価も同様な方法をとる。

**関連URL**

**備考**

1. 申し込み時の課題提出は強制ではないが、希望者は各人の「お国自慢」について400字詰め原稿用紙（A4サイズ、縦書き）3枚程度に手書きでエッセイをまとめ提出すること。各地域（県あるいは市レベル）の政治、経済、社会と関連させること。
2. 留学希望（その程度によらず）者はかならず申し込み書類にその旨を記載すること。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
225	経済学演習α(松本保美)	通年	3年以上：4単位	松本 保美 政政・経演・国演

## 副題

経済分析のための基礎理論・手法の研究

## 講義概要

(1) 計量分析のための理論と分析手法、(2) 集団的選択理論をそれぞれ1年間ずつ交互に研究する。  
 (1) では、GujaratiのBasic Econometrics (4th ed.) に従い、計量経済モデルの構築に必要な基礎的統計理論・分析手法・検定手法を学ぶ。  
 (2) では、まず、Arrowの一般可能性定理とその関連定理を学ぶ。特に、理論的枠組みと賦課される諸条件、および、結果の現実的な意味を解き明かすことに重点を置く。解釈に当たっては、進化生物学の成果をできるだけ取り入れる努力を行う。

## シラバス (授業計画)

(1) 西暦偶数年(3、4年合同)  
 第1回～第4回：Two Variable Regression Model  
 第5回：Classical Normal Linear Regression Model  
 第6回：Interval Estimation and Hypothesis Testing  
 第7回～第10回：Multiple Regression Analysis  
 第11回：Dummy Variables  
 第12回～第15回：Multicollinearity, Heteroscedasticity and Autocorrelation  
 第16回～第20回：Model Making (Student's Exercise 1)  
 第12回～第15回：Exercise Review and Additional Lesson on Data Handling  
 第16回～第30回：Final Model Making (Student's Exercise 2)  
 (2) 西暦奇数年(3、4年合同)  
 第1回～第2回：Introduction  
 第3回～第4回：Simple Majority Decision  
 第5回～第6回：Choice Functions  
 第7回～第11回：Arrow's General Possibility Theorem  
 第12回：Relational Approach and Choice Functional Approach  
 第13回～第15回：Base Relational Impossibility Theorem  
 第16回～第19回：K-set Feasible Impossibility Theorems  
 第20回～第21回：Revealed Preferential Impossibility Theorems  
 第22回～第25回：Real Meaning of Arrow-Type Problems  
 第26回～第27回：Basic Approach for Social Science  
 第28回～第30回：Various Issues of Collective Choice

## 教科書

(1) Gujarati, D., Basic Econometrics, 4th ed., McGraw-Hill, 2003  
 (2) Sen, A.K., Collective Choice and Social Welfare, North-Holland, 1970  
 Sober, E. ed., Conceptual Issues in Evolutionary Biology, 3rd. edy MIT Press, 2006

## 参考文献

上記(1)、(2)および進化生物学に関する文献は演習中に適宜紹介する。

## 評価方法

評価の第一は、教科書、および、参考文献の内容の正確な理解である。その上に、各自の独自のアイデアがどの程度付け加えられるかがポイントになる。卒論は(1)、(2)どちらを選択してもよいが、英語で書くこと(義務)。

## 関連URL

## 備考

学生に対する要望：応募時点での成績は問わない。積極的に、かつ、粘り強く学ぶ意志のある学生であれば良い。  
 注意：本演習は3年、4年合同である。したがって、2時限連続になるので、他の科目の履習に注意するように。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
226	経済学演習α(村上由紀子)	通年	3年以上：4単位	村上 由紀子 政政・経演・国演

## 副題

労働と勤労者生活に関する研究

## 講義概要

多くの人は、学校教育を終えたあと、労働力を供給して所得をもらい生活をしている。社会人となったあとも、さらに自分に教育投資をする人もいる。また、社会保障の諸制度は勤労者生活をサポートしている。本演習では、労働を中心として、教育、消費、社会保障などの勤労者の生活に直接関連する課題を取り上げ、それらに関する実態の解明、問題の把握、問題解決のための政策などについて、理論的・実証的に研究する。

本演習は主に二つの部分から構成されている。第一の柱はグループ研究である。今年のグループ研究の共通テーマは「医療現場の労働」であり、3～5人から成るグループごとにサブテーマを定めて研究を行う。研究の成果は口頭のプレゼンテーションと論文により発表する。第二の柱は4年次の卒業論文のテーマを決定することである。そのために、労働、教育、消費、社会保障などに関する文献の輪読、ディスカッション、ディベートなどを行う。

## シラバス (授業計画)

第1回：イントロダクション  
 第2回～第14回：医療現場の労働  
 第15回：グループ研究計画の発表  
 第16回：教育  
 第17回：賃金  
 第18回：消費  
 第19回：失業  
 第20回：社会保障  
 第21回：ワークライフバランス  
 第22回：転職  
 第23回：国際労働移動  
 第24回：若年者の雇用問題  
 第25回：女性労働  
 第26回：技能継承  
 第27回～第28回：グループ研究発表  
 第29回～第30回：卒業論文計画発表

## 教科書

授業中に指示する。

## 参考文献

授業中に指示する。

## 評価方法

グループ研究の評価50%、通常の授業の評価（出席、レポート、発表etc.）50%。

## 関連URL

## 備考

ゼミへの参加は2010年度開講の労働経済学を履修することを前提とする。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
227	経済学演習α(本野英一)	通年	3年以上：4単位	本野 英一 政政・経演・国演

**副題** 中国資本主義発達史研究

**講義概要** 「対外開放」体制を清末以来の歴史的視野の中で考察する。今年度は前半は加藤弘之・久保亨『進化する中国の資本主義』（岩波書店 2009年）、後半は柏祐賢『経済秩序個性論（Ⅱ）－中国経済の研究－』（京都産業大学出版会 1986年）を輪読する。この外、夏休みの合宿中には別に論文集をとり上げ、参加者各自に報告を行ってもらい、ゼミ論作成の手がかりとしてもらう。

**シラバス  
(授業計画)**

第1回：オリエンテーション(1)  
 第2回：オリエンテーション(2)  
 第3回～第12回：加藤弘之・久保亨『進化する中国の資本主義』輪読  
 第13回：全体討論(1)  
 第14回：全体討論(2)  
 第15回：夏合宿準備  
 第16回～第27回：柏祐賢『経済秩序個性論（Ⅱ）－中国経済の研究－』輪読  
 第28回：全体討論(1)  
 第29回：全体討論(2)  
 第30回：ゼミ論計画発表会

**教科書** 加藤弘之・久保亨『進化する中国の資本主義』（岩波書店 2009年）  
 柏祐賢『経済秩序個性論（Ⅱ）－中国経済の研究－』（京都産業大学出版会 1986年）

**参考文献** 歴史科学協議会編『卒業論文を書く：テーマ設定と史料の扱い方』（山川出版社、1997年）  
 田中比呂志・飯島 渉編『中国近現代史研究のスタンダード』（研文出版、2005年）

**評価方法** 各自の報告、並びにゼミ論の内容によって行なう。無断欠席三回以上、もしくは担当する報告をサボった場合は除籍処分とする。猶、ゼミ論については三年の早稲田祭、四年次の夏休み直前、四年次の早稲田祭を目標に各自報告を行なう。

**関連URL**

**備考** 原則としてアジア経済史α、経済史入門Bのいずれかの単位を取得済みか、もしくは現在受講中の学生の参加を優先する。本ゼミは、慶応大学経済学部アジア経済史ゼミと密接な交流を持っており、ゼミ論は、19世紀後半から日中戦争前夜の中国近代史を扱ったもの以外は許さない。本ゼミは、対外開放体制期中国の現状分析は扱わない。中国語・英語・日本語の史料閲読は、別に研究会を開く。こちらは志願者のみ受け付ける。

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
228	経済学演習α(森映雄)	通年	3年以上：4単位	森 映雄 政政・経演・国演

**副題** 現代日本の金融政策

**講義概要** 白川方明『現代の金融政策』、日本経済新聞社、2008年をメイン・テキストとして日本・主要国の金融政策について研究することにする。永年日本銀行に勤務し、現在日本銀行総裁である筆者が「はじめに」で述べているように、本書は教科書的に順を追って系統的に記述された書物でなく、金融政策の運営に携わった立場から日本・主要国の中央銀行が実際に直面してきた諸問題を論議した「中央銀行政策論」である。本書は、論議された諸課題が複眼的に、繰り返し議論されており、金融政策立案の複雑さを理解させてくれる書である。

ゼミでは、メイン・テキストで指摘される数多くの参考文献の中で、特に重要と考えられる文献も併せ講読してゆくことにする。講読する参考文献の多くは英文文献になる。

**シラバス(授業計画)** 3年次  
第1回～第10回：金融政策の目標・目的  
第11回～第20回：金融調節の方針・方法  
第21回～第29回：金融政策の波及経路  
第30回：1年間のまとめの考査

4年次  
第1回～第10回：金融政策の運営方法  
第11回～第20回：金融政策の運営方法を巡る論議  
第21回～第30回：卒論指導

**教科書** テキストは上述通り。

**参考文献** テキストで指摘されている主要な文献（英文）をコピー配布する。

**評価方法** 3年生では、報告・レジメの内容、考査、及びレポートを総合的に評価する。  
4年生では、報告・レジメの内容、及び卒論を総合的に評価する。

**関連URL**

**備考** ゼミでは報告者のレジメの朗読に終わることなく、各員が気軽に議論できる雰囲気をつくりたい。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
229	経済学演習α(藪下史郎)	通年	3年以上：4単位	藪下 史郎 政政・経演・国演

## 副題

金融・貨幣の理論的・実証的分析

## 講義概要

本年度前期では、マクロ経済学の教科書を用いて、マクロ経済および財政・金融政策に関する問題を中心に議論する予定である。『スティグリッツマクロ経済学』を中心に授業を進める。

後期においては、英語文献 (F. Allen and D. Gale, Understanding Financial Crises) を用いて、金融危機に関する理論的分析を中心に学ぶ。英文読解力と数学的分析が必須の条件である。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：需要・供給とマクロ経済学
- 第2回：マクロ経済活動の測定
- 第3回：完全雇用モデル
- 第4回：貨幣と銀行システム
- 第5回：完全雇用下の財政と開放経済
- 第6回：経済成長と生産性
- 第7回：経済変動
- 第8回：経支出と総所得
- 第9回：インフレーションと総需要
- 第10回：インフレと失業
- 第11回：マクロ経済政策
- 第12回：開放マクロ経済と政策
- 第13回：国際金融システム
- 第14回：財政赤字と余剰
- 第15回：経済発展
- 第16回：Time, Uncertainty and Liquidity (1)
- 第17回：Time, Uncertainty and Liquidity (2)
- 第18回：Time, Uncertainty and Liquidity (3)
- 第19回：Time, Uncertainty and Liquidity (4)
- 第20回：Time, Uncertainty and Liquidity (5)
- 第21回：Intermediation and crises (1)
- 第22回：Intermediation and crises (2)
- 第23回：Intermediation and crises (3)
- 第24回：Intermediation and crises (4)
- 第25回：Intermediation and crises (5)
- 第26回：Asset markets (1)
- 第27回：Asset markets (2)
- 第28回：Asset markets (3)
- 第29回：Asset markets (4)
- 第30回：Asset markets (5)

## 教科書

前期は『スティグリッツ マクロ経済学』（東洋経済）をまた  
後期はAllen and Gale のコピーを用いる。

## 参考文献

藪下史郎『金融論』（ミネルヴァ書房）、『トービツ金融論』（東洋経済）

## 評価方法

授業での討論と発表、および最後に提出する論文による総合的評価を行う。

## 関連URL

## 備考

基本的なミクロ経済学をマスターしておくこと。「スティグリッツ入門経済学」（東洋経済新報社）「非対称情報の経済学 スティグリッツと新しい経済学」（光文社）などを読んでいること。

「ミクロ経済学」「マクロ経済学」を履修していない人はそれらを同時に履修すること。また「金融論」を同時に履修していること。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
230	経済学演習α(若田部昌澄)	通年	3年以上：4単位	若田部 昌澄 政政・経演・国演

## 副題

経済学的思考を身につける

## 講義概要

これまでの学生生活で学生の皆さんは、経済学を本当に理解しているという感覚をお持ちだろうか。「本当に理解している」とは何か議論が必要であるし、講師自身が理解しているのかという鋭い批判は置いておいて、ここでは「現実の経済問題を経済学の推論方法にそって考えることができる」と定義しておこう。この意味での経済学的思考を学生が身につけることは、経済学教育の目的そのものである。しかし、それが達成されている、という実感に乏しいのはなぜだろうか。

その理由の一つは、ミクロ経済学、マクロ経済学を学んできて、それを実際に応用してみる訓練をしていないことにある。もう一つの理由は、応用してみる訓練をしていないために経済学の知識が概念の切れ端で、まだ全体としてのつながりが見えてこないことにある。もちろん大多数の学生は経済学の研究者になるわけではなく、現実生活での経済学の必要度が低いために学習意欲が盛り上がらないのも事実だ。しかし社会というものは実に面白くていて、他の人がしたいろいろなことが自分に回ってくる仕組みになっている。たとえばなぜ今年の学生は就職活動に苦勞しているのだろうか。それはその学生が昨年の学生よりも劣っているからだろうか。

この演習の目的は、(1)日常生活と、(2)より大きな社会現象・政策を理解するための経済学的思考を身につけることにある。ここでいう経済学とは現時点で標準的な経済学のことだ。いうまでもなく標準的な経済学は完全ではない。しかし、標準的な経済学は他の経済学よりもマシな議論であるというのが講師の「バイアス」である。技能の面では学生の(1)論理的思考力を高め、(2)経済学の勘所を復習し、(3)ディベートと発表によって学生の討論能力を開発し、そして(4)課題や修了論文を通じて文章を書く能力を向上させたい。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：論理トレーニング1
- 第3回：論理トレーニング2
- 第4回：論理トレーニング3
- 第5回：論理トレーニング4
- 第6回：ディベート1
- 第7回：経済学の基礎：「誰もが好きなことをしたい」
- 第8回：経済学の基礎：「でも無い袖は振れない」
- 第9回：経済学の基礎：「人は一人では生きられないし、一人で生きるのはトクではない」
- 第10回：経済学の基礎：「先立つものはお金だ」
- 第11回：ディベート2
- 第12回：少し応用してみる1
- 第13回：少し応用してみる2
- 第14回：少し応用してみる3
- 第15回：前期の終りにあたって
- 第16回：夏合宿の復習
- 第17回：少し応用してみる
- 第18回：少し応用してみる
- 第19回：ディベート3
- 第20回：ゼミ修了論文発表1回目1
- 第21回：ゼミ修了論文発表1回目2
- 第22回：ゼミ修了論文発表1回目3
- 第23回：ゼミ修了論文発表1回目4
- 第24回：ディベート4
- 第25回：ゼミ修了論文発表2回目1
- 第26回：ゼミ修了論文発表2回目2
- 第27回：ゼミ修了論文発表2回目3
- 第28回：ゼミ修了論文発表2回目4
- 第29回：ゼミ修了論文発表2回目5
- 第30回：ゼミの終りにあたって

## 教科書

飯田泰之『ダメな議論』ちくま新書、2004年。  
 スティーヴン・D・レヴィット、スティーヴン・J・ダブナー『ヤバい経済学』東洋経済新報社、2006年。  
 野矢茂樹『<新版>論理トレーニング』産業図書、2007年。  
 八田達夫『ミクロ経済学I』東洋経済新報社、2008年。  
 ミルトン・フリードマン『資本主義と自由』日経BP社、2007年。  
 リチャード・セイラー、キャス・サンスティーン『実践行動経済学』日経BP社、2009年。  
 \*変更する可能性あり。

## 参考文献

飯田泰之『経済学思考の技術』ダイヤモンド社、2004年。

**評価方法**

出席が単位取得の大前提。皆勤できない人は応募しないように。成績は3年終了時に提出する論文（50%）、日ごろの発表と発言（50%）に従う。

**関連URL****備 考**

学生に対する要望：

- ・ミクロ経済学 $\alpha$ 、 $\beta$ 、マクロ経済学 $\alpha$ 、 $\beta$ 、計量経済学を履修済みか履修中であることが望ましい。
- ・選考にあたっては課題文を提出してもらるので掲示板に注意するように。
- ・演習時間を延長することがありうるので、ゼミの後に用事を入れないこと。
- ・夏合宿に参加できること。
- ・応募する前に、講師が誰かくらいは確認をしてほしい。
- ・本代がかかることを気にしないこと（必要ならば本の購入代は貸す）。
- ・英語に対する苦手意識がないように。
- ・質問がある場合は、メール、オフィスアワーを利用すること。

# 経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
231	経済学演習α(渡会勝義)	通年	3年以上：4単位	渡会 勝義
				政政・経演・国演

## 副題

経済学における富と貧困、幸福

## 講義概要

経済学の歴史において富の発展と貧困（とくに失業）の問題は、中心的な位置を占めてきた。しかし最近では富の増加が幸福の増加をもたらすか否かが問題となっている。本演習では富の増加、貧困、幸福の関連について考察する。

## シラバス (授業計画)

第1回～第29回：上記テーマに関する文献（基本的に英語）を読み、議論をする。  
第30回：まとめ。各自上記テーマで考察したことをまとめる。（レポートの提出）

## 教科書

## 参考文献

随時紹介する。

## 評価方法

授業中における報告および討論、レポートを中心として評価する。当然ながら、出席率も重要な評価項目の1つとして考慮する。

## 関連URL

## 備考

関連科目：経済学史（渡会）（本演習のテーマに密接に関連する講義）  
学生に対する要望：現代の問題意識をもって経済学の文献を読む意欲のある諸君の参加を希望します。また内容のある英語を読解する能力を身につけたいと考える人も歓迎します。

# 国際政治経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
301	国際政治経済学演習α(秋葉弘哉)	通年	3年以上：4単位	秋葉 弘哉 政政・経演・国演

## 副題

開放マクロ経済学（国際金融論）

## 講義概要

現代の経済は、国際化とともにますますその相互依存関係を深めている。その依存関係は、モノ、ヒト、カネのいずれの側面でも今後さらに深まるものと考えられる。

本演習では、特にカネを通じた国際的な相互依存関係を、一昔前の「国際金融論」、現代風にいえば「開放マクロ経済学」をつうじて、主として理論的に解明する。

しかし同時に、理論的な帰結は実証的な側面から検証する必要がある、時間の許す限り、また受講生の基礎的な統計学の知識と計量分析能力に応じて、計量経済学からのアプローチにも注目する。

## シラバス (授業計画)

第1回：通年計画及び前期計画の説明等

第2回～第4回：テキスト第2章

第5回～第7回：テキスト第3章

第8回～第10回：テキスト第4章

第11回～第13回：テキスト第5章

第14回～第15回：テキスト第6章

第16回：後期計画の確認等

第17回～第19回：テキスト第7章

第20回～第22回：テキスト第8章

第23回～第25回：テキスト第9章

第26回～第28回：テキスト第10章

第29回～第30回：テキスト第11章

## 教科書

バード「国際マクロ経済学」文真堂、2001年

## 参考文献

## 評価方法

ゼミナールへの参加態度と3年終了時に提出を義務付ける論文の総合評価。

## 関連URL

## 備考

前提科目：ミクロ経済学入門・マクロ経済学入門（国際政経学科生のみ）

\*統計学入門

\*統計学入門については、履修済みであることが望ましい。

関連科目：金融論、国際貿易理論、国際金融理論、統計学、計量分析、計量経済学（ $\alpha$ 、 $\beta$ ）

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
302	国際政治経済学演習α(久保慶一)	通年	3年以上：4単位	久保 慶一 政政・経演・国演

**副題** 現代世界の民族紛争と平和構築

**講義概要** 本演習では、現代世界を揺るがしつづける民族紛争と紛争後平和構築について、理論と事例の双方を学ぶ。民族紛争はなぜ起こるのか。民族間の対立はどのように解決すればよいのか。多民族が平和的に共存するにはどうすればよいのか。紛争後の平和構築はどのように進めていけばよいのか。そこで国連などの国際機関はどのような役割を果たすべきなのか。本演習ではまずこれらの問題を考えるための理論的な文献を読み進めながら、世界各地の事例についても少しずつ学んでいきたい。その過程で各自が関心を寄せる事例・テーマを選択し、4年生になってからは、資料の収集と分析にもとづいた研究発表を行い、議論を通じて理論と事例双方の理解を深めていく。分析対象は先進国、旧ソ連・東欧、アジア、アフリカ、ラテンアメリカなどいずれの地域・国でもよいが、外国の政治・社会・歴史・文化に強い関心を持ち、積極的に議論に参加する人を希望する。

**シラバス(授業計画)**

第1回：前期イントロダクション  
 第2回：調査研究入門  
 第3回～第4回：文献購読1（アンダーソン『想像の共同体』）  
 第5回～第6回：文献購読2（レイプハルト『多元社会のデモクラシー』）  
 第7回～第8回：文献購読3（カルドー『新戦争論』）  
 第9回～第10回：文献購読4（クルーガー『人はなぜテロリストになるのか』）  
 第11回～第12回：文献購読5（ウォルツァー『正しい戦争と不正な戦争』）  
 第13回～第14回：文献購読6（稲田ほか『紛争から平和構築へ』）  
 第15回：前期のまとめ  
 第16回：後期イントロダクション  
 第17回～第22回：論文購読（ゼミ生の研究テーマをもとに購読する論文を選択）  
 第23回～第29回：研究成果の中間発表  
 第30回：まとめ、評価など

**教科書** 必要に応じ、指示する。

**参考文献** 必要に応じ、指示する。

**評価方法** 平常点（出席、発表の内容、議論への参加の程度など）と、提出物（ゼミ論文計画書あるいは研究レポート）の内容を総合して評価します。

**関連URL**

**備考**

# 国際政治経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
303	国際政治経済学演習α(久米郁男)	通年	3年以上：4単位	久米 郁男
				政政・経演・国演

**副題** 政治経済現象分析の技法

**講義概要** この演習の目標は日常起きている政治・経済的現象を政治学的に考える訓練を行うことにあります。政治的な紛争というものは、紛争当事者が理性的に話し合えば解決できるのでしょうか？政策のことをしっかり考えて皆が投票すればよい政治が実現するのでしょうか？新聞やテレビでの「常識」とは少し違う角度から様々な政治経済現象を見ることによって政治学の世界をのぞいてみましょう。具体的には、現代の政治や経済の現象を、他人の意見に簡単に説得されず、データや理論に基づいて社会科学的に分析し、自らの主張をプレゼンテーションする力をつけることを目指します。

**シラバス  
(授業計画)**

- 第1回：はじめに
- 第2回～第5回：方法論の基礎
- 第6回：分析のロジック
- 第7回～第8回：ディベート
- 第9回：政治経済学的問へ
- 第10回：研究デザイン
- 第11回：合理性について
- 第12回：ゲームの世界
- 第13回～第15回：古典を読む
- 第16回：プレゼンテーション
- 第17回～第20回：計量分析実習
- 第21回：ディベート
- 第22回～第24回：計量分析を用いた研究を読む
- 第25回～第28回：事例研究を読む
- 第29回～第30回：プレゼンテーション

**教科書** 講義中に適宜指示します。

**参考文献**

**評価方法** レポート、授業中の発表、出席状況によって成績を評価します。いかなる事情があっても半期に3回以上欠席がある場合は単位認定を行いません。2回以内の欠席については、その回の文献につきレポートを提出した場合、成績評価の対象とします。

**関連URL** <http://www.geocities.jp/kumeikuo/>

**備考** 今まで、私が、どのようなゼミ・講義を行ってきたかに関心のある方は以下のホームページを参照して下さい。

# 国際政治経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
304	国際政治経済学演習α(小西秀樹)	通年	3年以上：4単位	小西 秀樹 政政・経演・国演

**副題** 新政治経済学

**講義概要** 政治学と経済学の学際領域としての政治経済学は近年、ゲーム理論を用いた精緻なモデル分析とパネルデータを利用した厳密な実証分析の導入によって大きく様変わりしつつあり、しばしば新政治経済学 (The New Political Economy) と呼ばれる。本演習では、政治的アクター (政治家、有権者、利益集団、官僚など) による政策選択と市場経済との相互依存関係を考慮しながら、政策はどのように決まるのか、なぜその政策は採用されたのか、政策決定に関わる制度をどのように構築するのが望ましいのか、といった論点について理論と実証の両面から考察し、ゼミ生の間で議論することを目的とする。

**シラバス (授業計画)** 第1回～第15回：ゲーム理論の基礎を学習  
第16回～第30回：ゲーム理論を用いた政治経済学の文献を輪読

**教科書** とくに指定しない。

**参考文献** Mueller, D. C., Public Choice III, 2003, Cambridge University Press  
Stigler, G. J., Chicago Studies in Political Economy  
Osborne, M. J., An Introduction to Game Theory など

**評価方法** 演習での報告および討論への参加姿勢によって評価する。

**関連URL** <http://www.f.waseda.jp/h.konishi/Konishi-Lab/home.html>

**備考** 政経学部の講義で提出される経済学の基礎理論 (ゲーム理論を含む) を身につけていることが望ましい。参加学生は、政治経済学を理解することに加えて、プレゼンテーションの技術、討論の仕方なども同時に学んでもらいたい。

# 国際政治経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
305	国際政治経済学演習α(貞廣彰)	通年	3年以上：4単位	貞廣 彰 政政・経演・国演

## 副題

日本経済の現状分析と展望

## 講義概要

本演習は刻々と変化する日本経済と世界経済の動向を経済学の視点でもって解剖する素養を学ぶことを狙いとする。いうまでもなく、現実の経済はさまざまな要因（財政・金融面、雇用・労働面、人口動態や企業行動など）が複雑に絡み合っ循環と成長をしている。また、IT化、グローバル化、高齢化という世界の潮流変化の中で日本経済はさらなる変革をせまられている。

こうした複雑にからみあう現実の経済現象を理解して将来を展望するために、本演習では、(1) 現実のデータをグラフに描いて冷静に眺めるという経済分析の基本姿勢を貫きながら、初歩的な経済理論と客観的なデータに基づいて、議論を重ねることで、経済を見る眼を培っていく、(2) 今後の財政改革、年金改革、規制改革などの重要なテーマについて論点整理と各自の意見を磨く、と同時に、(3) 米国、欧州、アジア（特に中国）経済など日本経済へ影響を及ぼす国際的な事柄についても理解を深めていく。

教材としては「経済財政白書」、IMFなどの国際機関の文献を使用する。

## シラバス (授業計画)

第1回～第15回：前期はマクロ経済指標の発表を行う  
第16回～第30回：後期はWorld Economic Outlook を読む。

## 教科書

IMF, World Economic Outlook (最新版)

## 参考文献

## 評価方法

卒業論文は必須とする。

## 関連URL

<http://www.waseda.jp/sem-sadahiro/>  
<http://www.f.waseda.jp/sadahiro/>

## 備考

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
306	国際政治経済学演習α(須賀晃一)	通年	3年以上：4単位	須賀 晃一 政政・経演・国演

**副題**

現代社会の政治経済分析ー公共性の実現に向けて

**講義概要**

このゼミでは、公共性の政治経済学を求めて、広く現代社会が抱えるさまざまな問題を政治経済学・公共経済学の視点で考えてみたいと思います。現代社会の問題の多くは特定の観点から解決できるものではなく、複眼的視点に立って公共性の実現を目標に解決のルートを探るべきものであると考えられます。これまでに繰り返し指摘されてきた効率と公平の両立を図ることは重要な観点であり、皆さんに学んでいただければならない最小限の視点です。さらに、効率と公平を政治経済システム全体の中で、さらには時間的、空間的パースペクティブの中で考察することも重要な課題であるので、これを新たな課題したいと思います。これまでに取り上げてきたテーマに照らして考えると、具体的なテーマは以下のようになります。

1. 地球環境問題と世代間倫理
2. グローバリゼーションとグローバル・ジャスティス
3. 少子高齢化と社会保障
4. 現代の貧困と労働問題
5. 資源と食料の政治経済分析
6. 教育の政治経済分析
7. 医療の政治経済分析

これらの問題に対して、明確な価値基準を設けて、公的制度を作るとか、当事者間の合意によりルールを設定することで解決するといった方向を探るのが、このゼミで用いる接近方法の特徴です。

ゼミでは、まず現代社会の問題群の中から自分なりのテーマを決めます。そして、それに応じて2種類の課題図書を指定します。1つは各自のテーマに関する中級のテキスト、もう1つは書評用の図書(新書程度)です。まず、書評を作成し、発表してもらいます。書評の作成およびテキストの要約は春休みの宿題です。次に、グループ研究を行います。各人の選んだテーマに従ってグループを作り、グループごとにサブテーマを決めて資料収集し議論・研究し、発表原稿を作成します。指定した中級テキストが資料収集の際に指針を与えてくれるでしょう。発表グループが進行役となり、ゼミでの議論を進めてもらいます。グループごとの共同研究の成果は共同論文にまとめます。

**シラバス  
(授業計画)**

- 第1回：自己紹介と今後の進め方
- 第2回：パワーポイントの使い方
- 第3回：書評の発表(1)
- 第4回：書評の発表(2)
- 第5回：書評の発表(3)
- 第6回：書評の発表(4)
- 第7回：書評の発表(5)
- 第8回：各班によるテキスト発表(1)
- 第9回：各班によるテキスト発表(2)
- 第10回：各班によるテキスト発表(3)
- 第11回：各班によるテキスト発表(4)
- 第12回：班研究のテーマ決定
- 第13回：各班での資料分析
- 第14回：班発表(1)、(2)
- 第15回：班発表(3)、(4)
- 第16回：夏合宿の反省と今後の課題の検討
- 第17回：班ごとの論文作成ー中間発表に向けてー(1)
- 第18回：班ごとの論文作成ー中間発表に向けてー(2)
- 第19回：各班の中間発表(1)
- 第20回：各班の中間発表(2)
- 第21回：オープンゼミ(1)
- 第22回：オープンゼミ(2)
- 第23回：班ごとの論文作成ー最終版に向けてー(1)
- 第24回：班ごとの論文作成ー最終版に向けてー(2)
- 第25回：各班の発表練習ーISFJ政策フォーラムに向けてー(1)
- 第26回：各班の発表練習ーISFJ政策フォーラムに向けてー(2)
- 第27回：班ごとの論文作成ー政治経済学会論文コンクールに向けてー(1)
- 第28回：班ごとの論文作成ー政治経済学会論文コンクールに向けてー(2)
- 第29回：4年生卒業論文へのコメント(1)
- 第30回：4年生卒業論文へのコメント(2)

**教科書**

研究室のホームページを参照のこと。

**参考文献**

研究室のホームページを参照のこと。

**評価方法**

発表内容・出席回数・平常点により評価する。

**関連URL**

<http://www.f.waseda.jp/ksuga/>

**備 考**

ゼミの最終目標を卒業論文の作成に置きます。

ゼミは通常の一方向的な講義と異なり、皆さんが主役です。主役たる皆さん一人一人が積極的に参加しなければゼミは崩壊します。自分なりのテーマを持って自分で研究する態度を養い、他の人とできるだけ議論して下さい。常に「根拠は何か」と問う姿勢を持つことが大切です。この作業が就職してから大いに役に立ちます。

# 国際政治経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
307	国際政治経済学演習α(鈴木興太郎)	通年	3年以上：4単位	鈴木 興太郎 政政・経演・国演

**副 題** 厚生経済学と社会的選択の理論

**講義概要** この演習では、厚生経済学と社会的選択の理論の基礎を学び、この理論に立脚して経済政策の批判的検討と建設的な立案に関するグループ研究と全体討議を行う予定である。議論の素材となる経済政策の具体例としては、福祉政策と競争政策を念頭においている。

**シラバス  
(授業計画)** 第1回～第15回：『社会的選択の理論・序説』を輪読する。  
第16回～第30回：学生の関心に応じて課題図書を指示して個別報告をさせ、全員で討議する。

**教科書** 鈴木興太郎『社会的選択の理論・序説』（2010年に東洋経済新報社より出版の予定）必要に応じてコピーを配布する。

**参考文献** 鈴木興太郎（編）『世代間衡平性の論理と倫理』東洋経済新報社、2006年。  
鈴木興太郎・長岡貞男・花崎正晴（編）『経済制度の設計と生成』東京大学出版会、2006年。  
鈴木興太郎『厚生経済学の基礎-合理的選択と社会的評価-』岩波書店、2009年。

**評価方法** 演習での報告と討議の平常点による。

**関連URL**

**備 考** 学生に対する要望：参加する学生には、じっくりと腰を据えた読書と推論の姿勢を求めたい。また、ミクロ経済学の基礎を堅実に身に付けていること、公共哲学の基礎をしっかりと学習していることを期待している。

# 国際政治経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
308	国際政治経済学演習α(唐亮)	通年	3年以上：4単位	唐亮 政政・経演・国演

**副題** 現代中国の政治経済と外交戦略

**講義概要** 戦後のアジア各国は歴史、文化および政治経済体制に関して多様性を持ちながら、国家統合、経済開発および民主化といった共通の課題を抱え、それぞれのアプローチで目標の実現に向けて努力してきた。この講義は近代化のプロセス、社会の変動および体制移行の径路をキーワードとし、比較分析の枠組みを用いながら、経済開発・社会発展・民主化のアジアモデルへの接近を試みたい。特に、改革開放路線によってダイナミックな発展を遂げている中国に焦点を当て、内政外交の重大課題と政府の発展戦略を分析し、市場経済化、グローバル化、情報化および意識の多様化といった流れを検証し、中国の「実像」と「将来像」に迫る。

**シラバス(授業計画)**

第1回：Introduction  
 第2回～第6回：現代中国の政治権力構造  
 第7回～第11回：現代中国政治の展開  
 第12回～第16回：近代化路線の「光」と「影」  
 第16回～第21回：経済発展と社会の変容  
 第22回～第24回：政治改革と民主化運動  
 第25回～第30回：中国の対外戦略：近隣外交、日中関係、アジア共同体

**教科書** 受講生と相談の上で決める。

**参考文献** 岩崎育夫『アジア政治を見る目』中公新書、2001年  
 武田康裕『民主化の比較政治-東アジア諸国の体制変動過程』ミネルヴァ書房、2001年  
 毛里和子『新版現代中国政治』名古屋大学出版会、2004年  
 唐亮『変貌する中国政治』東京大学出版会、2001年  
 毛里和子『日中関係——戦後から新時代へ』岩波書店、2006年

**評価方法** 研究発表、討論への参加状況、ゼミ論を中心に評価し、出席率を参考にする。

**関連URL**

**備考** アジア、特に現代中国に関心を持つ元気な学生の参加を大歓迎する。夏休みに自主参加の形で北京大学などとの共同セミナー、庶民生活の体験および社会観察などの自主参加プログラムを実施する。

# 国際政治経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
309	国際政治経済学演習α(遠矢浩規)	通年	3年以上：4単位	遠矢 浩規 政政・経演・国演

## 副題

非政治的的日常への国際政治経済学視点

## 講義概要

国際政治経済学は目に見える「戦争」や「外交交渉」だけでなく、そうした現象の背後にある目には見えない構造や過程に注目し、それを可視化する理論的で実証的な学問です。貿易、投資、金融、技術革新、情報通信、エンターテインメント、サブカルチャーなど、一見、「非政治的」な経済活動や社会活動が実は「政治的」な国際関係（支配や格差）を形成していることを明らかにするスリリングな学問とも言えます。

2010年度の遠矢ゼミの内容と方法は、現在、現役ゼミ生の意見も踏まえて検討中です。概要が決まり次第、下記ホームページに掲載する予定なので、随時チェックしてみてください。社会科学的方法（「仮説」を立てて「検証」する、「理論」を使う）を重視します。

注意：「副題」と「シラバス」は暫定的なもので変更の可能性があります。ホームページや学生によるオリエンテーションで最新版を確認してください。

## シラバス (授業計画)

第1回：イントロダクション

第2回～第15回：ゼミのテーマに関連した文献の輪読やディスカッションなど

第16回：後期オリエンテーション

第17回～第23回：個人テーマによる発表・一巡目（問題意識を中心とした研究計画案）

第24回～第30回：個人テーマによる発表・二巡目（テーマを絞り込み、理論や研究方法を明確にした研究計画案）

（3年次の後期の2回の発表を4年次のゼミでの卒論制作につなげていきます。）

## 教科書

## 参考文献

予備知識として：

山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』（有斐閣、2006年）

飯田敬輔『国際政治経済』（東京大学出版会、2007年）

## 評価方法

プレゼンの方法・内容、議論への貢献度、ゼミ参加の姿勢、出席率等を総合的に勘案して評価します。

## 関連URL

ゼミの内容、方法、スケジュール、指導教員（遠矢）のプロフィール等については下記ホームページに掲載予定です（2009年10月8日現在で未完成です。随時確認してください）。

<http://tohya.buzama.com/>

## 備考

当ゼミは2009年度に始まったばかりの新しいゼミです（2010年度のゼミ生が2期生になります）。そのため、ゼミのスタイルは確立されておらず発展途上にありますが、「新しいゼミ」の形成に参画し共に歴史を作っていきたいという意欲的で独創的な学生が集まることを期待しています。

# 国際政治経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
310	国際政治経済学演習α(都丸潤子)	通年	3年以上：4単位	都丸 潤子 政政・経演・国演

## 副題

ヒトの国際移動の文化的・歴史的分析

## 講義概要

この演習では、多様な主体によって重層的に構成されている国際社会において、トランスナショナルな現象の代表例である人間およびその集団の移動が、どのような原因で生じ、いかなる過程を経て、どのような結果をもたらすかを社会科学的に分析し、理解を深めることを目的とする。分析にあたっては、政治的・経済的側面だけでなく、文化的・社会的・心理的な側面からの検討を重視したい。具体的には、ヒトの国際移動に伴って生じる文化の接触と変容、移動者のアイデンティティの変容、送出国・経由国・ホスト国や国際組織の関与、移動先の社会における集団間関係や多文化共存のあり方などを研究対象とする。また、ヒトの国際移動の歴史は古く、特にナショナル・ヒストリーとグローバル・ヒストリーをつなぐ現象とされる植民地化と脱植民地化の過程で起こったヒトの移動の影響は、現在にもみられる。従って、このような事例に関する歴史的分析も重視したい。これらの視点は、人間集団のなかでも、一般市民、マイノリティ、弱者の立場から国際社会の現象を捉えなおすことにもつながる。参加者と一緒に、より人の顔のみえる国際関係像をさぐってゆきたい。

## シラバス (授業計画)

第1回：ガイダンス  
 第2回：導入的講義と問題提起：国際関係論の研究・分析とは？なぜ国際移動が重要か？  
 第3回：輪読・テキスト：S・カースルズ、M・J・ミラー『国際移民の時代』第1章  
 第4回：輪読・テキスト：S・カースルズ、M・J・ミラー『国際移民の時代』第2章  
 第5回：輪読・テキスト：マイロン・ウェイナー『移民と難民の国際政治学』第3章  
 第6回：輪読・テキスト：マイロン・ウェイナー『移民と難民の国際政治学』第4章  
 第7回：輪読・テキスト：マイロン・ウェイナー『移民と難民の国際政治学』第5章  
 第8回：輪読・テキスト：マイロン・ウェイナー『移民と難民の国際政治学』第6章  
 第9回～第12回：ゼミ論テーマ・プロポーザル  
 各回につき、テーマの近い学生約2～3名ずつがテーマ案を報告・質疑応答  
 第13回～第14回：ゼミ論テーマに共通性のあるトピックについての文献論読  
 第15回：まとめと夏休みの課題呈示  
 第16回：(後期第1回)合宿報告の講評・反省、後期のテキスト等概読  
 第17回～第18回：ロビン・コーエン、ポール・ケネディ『グローバル・ソシオロジー I, II』より論読  
 第19回：(オープンゼミ)共通テーマを設定して報告・ディスカッション  
 第20回：論読・テキスト：Khalid Koser, *International Migration*, Chapter 2  
 第21回：論読・テキスト：Khalid Koser, *International Migration*, Chapter 3  
 第22回：論読・テキスト：Khalid Koser, *International Migration*, Chapter 4  
 第23回：論読・テキスト：Khalid Koser, *International Migration*, Chapter 5  
 第24回：論読・テキスト：Khalid Koser, *International Migration*, Chapter 6  
 第25回：論読・テキスト：Khalid Koser, *International Migration*, Chapter 7  
 第26回：論読・テキスト：Khalid Koser, *International Migration*, Chapter 8  
 第27回～第30回：ゼミ論テーマ・中間報告。各回につき、テーマの近い学生が約2～3名ずつ報告・質疑応答

## 教科書

以下の代表的参考文献や、*Ethnic and Racial Studies*, *International Migration Review*などの学術雑誌から選択的に用いる。

## 参考文献

詳細は開講中に適宜示すので、ここでは代表的な参考文献を挙げておく。  
 S・カースルズ、M・J・ミラー著、関根政美、関根 薫訳『国際移民の時代』名古屋大学出版会、1996年。  
 小倉充夫・加納弘勝編『シリーズ国際社会 第7巻 第三世界と国際社会』東京大学出版会、2002年。  
 平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年。  
 マイロン・ウェイナー著、内藤嘉昭訳『移民と難民の国際政治学』明石書店、1999年。  
 ロビン・コーエン、ポール・ケネディ著、山之内靖監訳『グローバル・ソシオロジー I, II』平凡社。  
 Robin Cohen, *Global Diasporas*, UCL Press, 1997.  
 Khalid Koser, *International Migration\_A Very Short Introduction*, Oxford University Press, 2007.

## 評価方法

αについては、平常点と学年末ペーパーによって評価する。  
 βについては、平常点とゼミ論によって評価する。

## 備考

国際社会関係論α、βを履習してください。左の科目に加え、国際関係論入門または現代国際関係論も履習していることが望まれます。  
 主体的に研究を進める熱意を持ち、建設的な議論のできる学生を歓迎します。

# 国際政治経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
311	国際政治経済学演習α(深川由起子)	通年	3年以上：4単位	深川 由起子 政政・経演・国演

## 副題

現代東アジア経済研究：グローバリゼーションと新興経済の諸問題

## 講義概要

東アジア（NIEs、ASEAN、中国及びインドなどその周辺）経済は各国の基礎条件の多様性が強調されがちだが、グローバリゼーションへの積極的な参加、「圧縮された成長」がもたらす均衡や矛盾の内包など、多くの共通点がみられる。例えば、急速な輸出の拡大、国際分業ネットワークと産業集など、力強い成長構造を持つ反面、金融部門の脆弱さ、所得格差や民主化の未成熟さなど、さまざまな問題が内在する。機会でもあり、負荷でもあるグローバリゼーションの影響は先進国でも似ているが、経済規模が小さく、政治社会構造が未成熟な新興国への影響は一層、大きい。本演習は考察対象を東アジアに限定はするが、地域研究的な歴史的アプローチをとらず、グローバリゼーションへの対応という点からその経済発展メカニズムを捉えて議論を進める。東アジアは言うまでもなく日本とますます深い経済相互依存関係にあり、同時代・近隣経済の生きた「現実」を理論との接点において掘り下げることを楽しみながら勉強を進めることにしたい。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：東アジアの経済パフォーマンス
- 第2回：輸入代替工業化と輸出主導工業化
- 第3回：産業政策と技術移転
- 第4回：直接投資
- 第5回：国際分業と産業集積
- 第6回：金融抑圧と金融抑制
- 第7回：市場拡張型政府
- 第8回：金融自由化と資本の自由化
- 第9回：通貨危機
- 第10回：ファミリー・ビジネスと経済発展
- 第11回：構造調整（企業・金融部門）
- 第12回：構造調整（労働・社会部門）
- 第13回：体制移行経済
- 第14回：経済統合と開発
- 第15回：東アジアの地域協力
- 第16回：現地演習(1)\*（備考参照）
- 第17回：韓国：キャッチアップ工業化の原型
- 第18回：台湾：中小企業と産業集積
- 第19回：香港／シンガポール：開放小経済のハブ機能
- 第20回：タイ：直接投資と技術移転の課題
- 第21回：フィリピン：経済開発と民主化
- 第22回：マレーシア：経済発展と社会的求心性の維持
- 第23回：インドネシア：権威主義体制と経済ガバナンス
- 第24回：中国(1)：漸進主義的改革
- 第25回：中国(2)：対外開放とグローバリゼーション
- 第26回：ベトナム：対外開放と後発の利益
- 第27回：インド：グローバリゼーションと産業構造転換
- 第28回：ASEAN：東アジア型経済統合アプローチ
- 第29回：現地演習(2)\*\*（備考参照）
- 第30回：まとめと卒業論文研究計画検討

## 教科書

授業にて指示

## 参考文献

基本的には演習開始時のシラバス及びreading packetによるが、情報収集能力を高めるために主要Journalや文献をHPから探してダウンロードする作業を課す。

## 評価方法

平常点（報告、議論への参加、レポート）及び卒業論文。

## 関連URL

## 備考

学生に対する要望：国際経済学及び経済開発関連科目を履修済みもしくは履修のこと。現地演習を実施しているため、現地を旅する体力と好奇心を持ち、分量の多い英語文献を読み、かつ英語で議論することが苦痛でないこと。演習では問題意識を持って積極的に議論を展開

# 国際政治経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
312	国際政治経済学演習α(堀口健治)	通年	3年以上：4単位	堀口 健治 政政・経演・国演

## 副題

市場経済と土地所有・利用の研究

## 講義概要

バブル崩壊後の日本の金融制度と資産価値は不安定化を進め、将来が見通しにくい。根源に土地問題があるが、戦後の経済成長と土地資産の関連は十分な実証研究を要する。価値実体なき土地の価格は市場経済という表面的問題の裏に、土地所有と資本の対抗・包摂の古典的問題を内包している。過密と過疎にかかわって、都市計画とともに、農村計画や地方の土地問題も対象とする。発展途上国の貧しさと土地所有の関係、旧社会主義国の土地改革、他の先進資本主義国の動向や食料問題、農業問題に興味をもつ人の参加も歓迎する。パワーポイントも含めパソコンの習熟を求める。今回のサブプライムローンを引き金とするグローバルなシステムの混乱は、土地問題が根底にある。一方で、バイオエタノールの拡大は、農産物価格上昇と環境、エネルギーの問題を結びつける。

卒業論文のテーマは幅広く設定してよいが、社会科学の論文として必要なテーマ設定の考え方、分析手法、論理性などの基礎的な学習を、日本経済論や政治経済学を学ぶことで、獲得する。2年間かけて卒業論文を書きあげることが必須である。

## シラバス (授業計画)

第1回～第5回：研究の進め方、論文の書き方、先行研究などの紹介・議論。  
 第6回～第12回：日本経済論の輪読、討議。  
 第13回～第15回：8月合宿に向けての準備、資料収集・検討。  
 第16回～第18回：早稲田祭発表等、集団学習の対応。  
 第19回～第22回：卒論仮テーマの報告・検討  
 第23回～第30回：卒論中間報告、討議。

## 教科書

通常3年は日本経済論を主に論読対象を決めて討議。3年後期は新たに合評する本を協議して決める。

## 参考文献

講義中に指示する。

## 評価方法

ゼミへの参加の度合、プレゼンの内容、議論参加および卒業論文の内容。

## 関連URL

## 備考

宇沢『社会的共通資本』、橋本『戦後の日本経済』、橋木『格差社会何が問題なのか』（以上いずれも岩波新書）、梶井『日本農業のゆくえ』（岩波ジュニア新書）のうち、一冊を選びその書評（2千字以上）をゼミ選考の面接時に持参されたい。本人の計画や希望の3分間スピーチおよび上記の書評などで評価する。なお2年間ゼミで継続して学び卒業論文を書きあげる学生を期待する。

# 国際政治経済学科

2010

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
313	国際政治経済学演習α(山崎眞次)	通年	3年以上：4単位	山崎 眞次 政政・経演・国演

## 副題

マイノリティ・ナショナリズムの研究

## 講義概要

冷戦終結後の紛争は、国家間の争いより国家内の民族対立から多くが発生している。民族対立の大半は主権国家に対する国内少数派（マイノリティ）の異議申し立てである。紛争の原因は、宗教・習慣・言語等の違いから惹起される文化的摩擦、自治権・自決権の公平性や拡大という政治的要求、財源の公平な分配や地下資源の開発権等の経済的要求など、その紛争が起こる国や地域によって多岐に渡る。

私たちは、世界各地で頻発するエスニック紛争をこのまま見過ごしていいのであろうか。なぜエスニック・マイノリティは主権国家に異議を唱えるのか、彼らの主張は理解できるものなのか、その解決策はないのか、そのようなことを模索するのが、本演習の目的である。担当者は長年ラテンアメリカのナショナリズム研究に従事してきたので、その経験を演習では生かすつもりであるが、研究対象をラテンアメリカに限定するものではない。

また、研究対象者は民族的少数者に限らない。男性に対する女性、大人に対する子ども、健常者に対する障害者といった社会的弱者にも焦点を当てる。

キーワードとしては、人権、マイノリティ、民族紛争、多文化主義、ナショナリズム、リベラリズム、コミュニタリアニズム、先住民、ジェンダーなどがあげられる。

## シラバス (授業計画)

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：提出された課題の検討
- 第3回：ナショナリズムの定義1
- 第4回：ナショナリズムの定義2
- 第5回：ナショナリズムの定義3
- 第6回：エスノナショナリズム1
- 第7回：エスノナショナリズム2
- 第8回：エスノナショナリズム3
- 第9回：エスノナショナリズム4
- 第10回：エスノナショナリズム5
- 第11回：エスノナショナリズム6
- 第12回：リベラリズム1
- 第13回：リベラリズム2
- 第14回：コミュニタリアニズム
- 第15回：前期総括
- 第16回：ポストコロニアル研究1
- 第17回：ポストコロニアル研究2
- 第18回：ポストコロニアル研究3
- 第19回：多文化主義1
- 第20回：多文化主義2
- 第21回：多文化主義3
- 第22回：フェアトレード1
- 第23回：フェアトレード2
- 第24回：社会的マイノリティ
- 第25回：ジェンダー1
- 第26回：ジェンダー2
- 第27回：ジェンダー3
- 第28回：少子化問題
- 第29回：高齢化社会
- 第30回：総括

## 教科書

加藤普章・吉川元編、「マイノリティの国際政治学」、有信堂、2000年

## 参考文献

- 3年生の基礎文献
- B. アンダーソン「想像の共同体」、A. スミス「ネイションとエスニシティ」、A. ゲルナー「民族とナショナリズム」、C. テイラー「マルチカルチャリズム」、W. キムリッカ「多文化時代の市民権」、J. バージャー「世界の先住民」、山崎眞次「メキシコ 民族の誇りと闘い」、江原由美子、山田昌弘「ジェンダーの社会学入門」、目黒依子「ジェンダー・システムと少子化」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の人口減少社会を読み解く」

## 評価方法

ゼミへの参加意欲(30)、発表(40)、レポート(30)の3点から総合的に評価する。

## 関連URL

<http://members3.jcom.home.ne.jp/4115779001/>  
<http://www.waseda.jp/sem-minoritygis>

## 備考

学生に対する要望：マイノリティ問題に強い関心をもつ学生をもとむ。

整理番号	科目名	学期	配当年次・単位	担当教員
314	国際政治経済学演習α(若林正文)	通年	3年以上：4単位	若林 正文 政政・経演・国演

**副題** 東アジア地域研究：「関係の中の台湾」から東アジアを理解する

**講義概要** 「関係の中の台湾」をキーワードにして、台湾地域研究に関連する文献を輪読・討論しながら、台湾という地域を手がかりに東アジアという地域への理解を深め、この地域が抱えている課題について考えていく。この場合台湾地域研究とは、経済、文化、社会関係など広い意味の台湾の対外関係も含む。つまり、「関係の中の台湾」を見るということは、時に米中関係の、日中関係の研究であり、また時に中国近現代史の、日本近現代史の分野に分け入るということにもなる。台湾から入り、東アジアに自分の「地域」と「問題」を見つけ、ゼミの中で表現し、最終的なゼミ論文に繋げていく。

**シラバス(授業計画)**  
 第1回：イントロダクション：台湾とは何か？ 東アジアとは何か？  
 第2回～第5回：台湾を知ろう：ファーストステップ  
 第6回～第8回：台湾を知ろう：セカンドステップ  
 第9回～第15回：日中台関係研究  
 第16回：総合討論  
 第17回～第19回：米中台湾関係研究  
 第20回～第23回：中台（「台湾海峡兩岸」）関係研究  
 第24回：予備討論  
 第25回～第29回：参加者研究報告  
 第30回：総合討論

**教科書** まず若林正文の『台湾 変容し躊躇するアイデンティティ』（中公新書）を手がかりに同『台湾の政治 中華民国台湾化の戦後史』（東京大学出版会）を読破する。園の中国は、ステップ毎に指定する。またこういうものを読みたいという参加者の提案を歓迎する。

**参考文献**

**評価方法** 出席、報告と討論参加およびゼミ論文で総合的に評価します。若林のゼミは今年が初年度なので、ゼミ論文は、問題発見的（自身の問題関心の表明）なレポートを年度末に提出することを求めます。

**関連URL**

**備考** これまでの基礎知識は問いませんが、これからの学習に対する強い意欲と好奇心ならびに知的柔軟性と何冊も本を読み抜く持久力が必要です。無断欠席3回以上で、評価の対象から外します。参加者の意欲次第ですが、適切なタイミングで台湾へのゼミ旅行の実施も考えています。